

**個人情報取扱いに関する職員意識調査  
報告書**

**平成 28 年 11 月  
大崎市病院事業**

# 1 個人情報の取扱いに関する職員意識調査について

## I 調査目的等

### 1 調査目的

院内の個人情報の取扱いについて、昨年度の職員意識調査から職員一人ひとりの意識がどのように変化したかの調査を行い、実態の把握と対策を講じることで失われた信頼の回復を図ることを目的とする。

### 2 調査の概要

#### (1) 調査期間

調査期間：平成28年10月27日～11月8日

#### (2) 調査対象職員

大崎市病院事業で勤務する全職員

(委託業務契約業者職員含む。病休者、産休者、育休者を除く。)

#### (3) 調査実施方法

無記名調査票の提出による。

#### (4) 調査内容

以下①～⑤について、全45問

- ① 職員の個人情報の取扱いに対する意識について (Q1～Q11)
- ② 個人情報の取扱いにおける職場の状況について (Q12～Q22)
- ③ 取り組んでいる対策の効果について (Q23～Q42)
- ④ 個人情報の取扱いにおける意識の変化について (Q43～Q44)
- ⑤ 大崎市病院事業職員としての自覚について (Q45)

### 3 回答数

	職員数 (a)	病休・産休 ・育休者数 (b)	対象者数 (c)	回答数 (d)	回答率 (e)
全体	1,783	61	1,722	1,701	98.78%

※ 対象者数 (c) = (a) - (b), 回答率 (e) = (d) / (c)

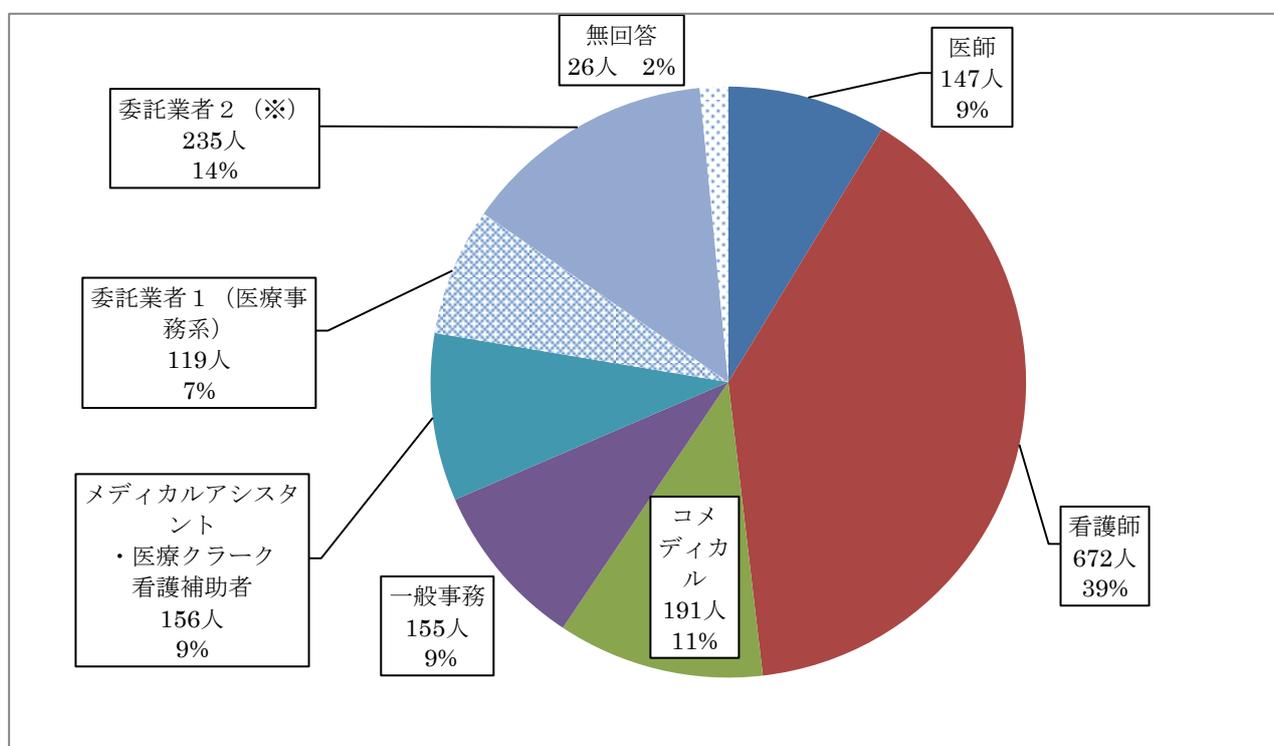
※ 所属別では、医師 (回答率 87.72%) を除き 100% の回答率であった。

## II 調査結果等

### 【調査結果データの見方】

- ・ N (Number of cases) とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
  - ・ 回答の構成比は百分率で表し、小数点第2位を四捨五入して算出している。
- 従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・ 回答者が2つ以上の回答をすることができる複数選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。

### 1 回答者の属性 (N=1,701)

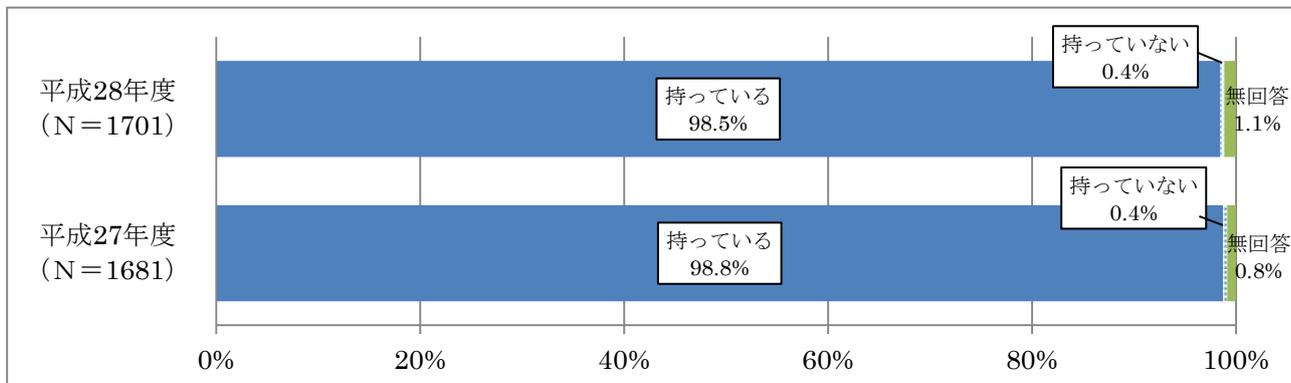


※ 清掃委託業者、警備委託業者、給食委託業者、システム運用委託業者等

## 2 調査結果

### (1) 職員の個人情報の取扱いに対する意識について

Q1 あなたは、個人情報について、適切な取扱いをしなければならないという意識を持っていますか。

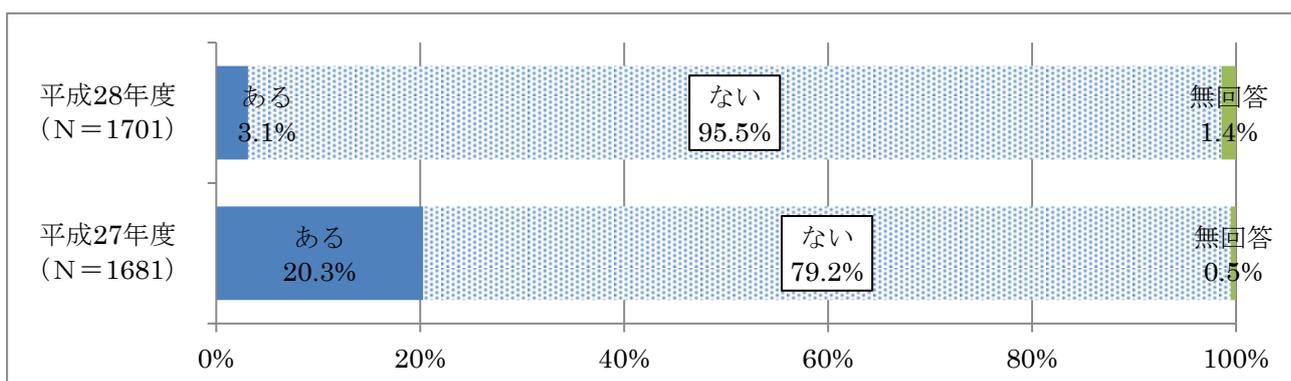


**【状況】**適切な取扱いについての意識は、1,675人・98.5%が「持っている」と回答し、昨年度と比較すると0.3%悪化している。

**【原因等】**対策として講じてきた研修会等の効果が乏しいことが伺える。

**【対応策】**具体例を交え、理解しやすい研修内容に見直したうえで、職員の意識の改善を図っていく。

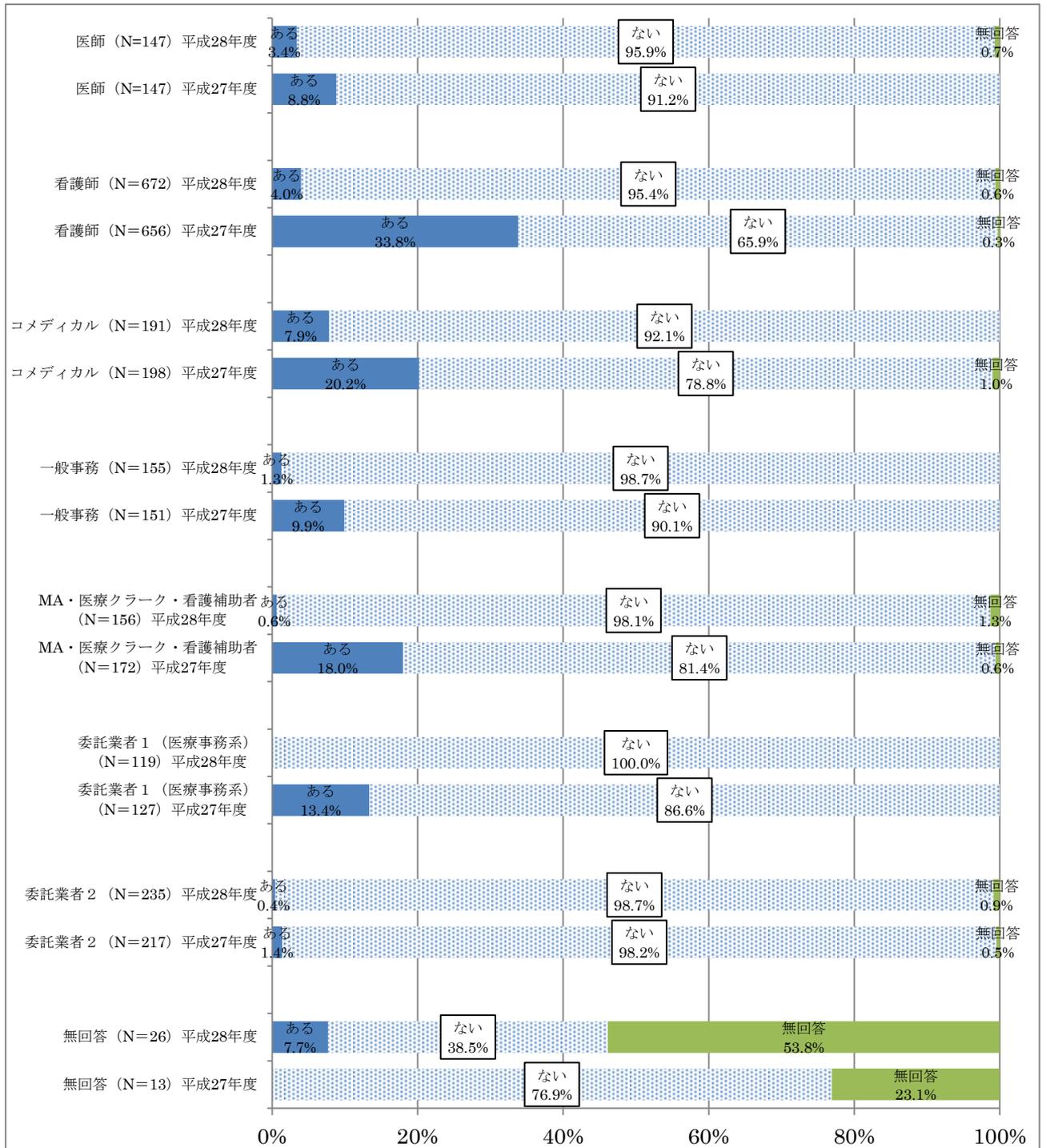
Q2 あなたは、昨年度の職員意識調査(平成27年8月)以降に、業務に関係しない個人情報を閲覧したことがありますか。



**【状況】**業務に関係しない個人情報の閲覧については、未だに53人・3.1%の職員が「ある」と回答している。

**【原因等】**対策として講じてきたシステム機能の見直しとシステム操作研修の実施等の効果が乏しいことが伺える。

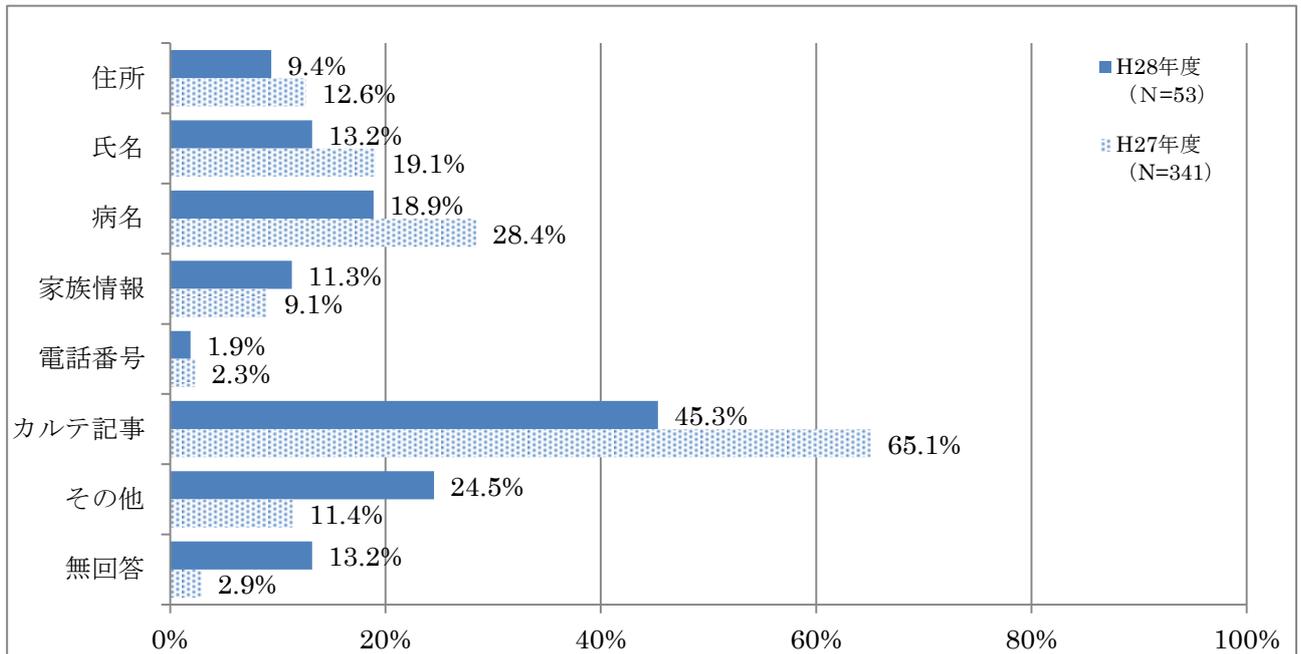
**【対応策】**実施内容を明確に職員へ周知するとともに、実施方法の見直しをしながら、職員の意識の改善を図っていく。



【状況】「ある」と回答した職員の職種別に占める割合では、「コメディカル」が最も多く、191人中15人・7.9%となっている。次いで「看護師」が672人中27人・4.0%となっている。

※ MAとは、メディカルアシスタントの略である。

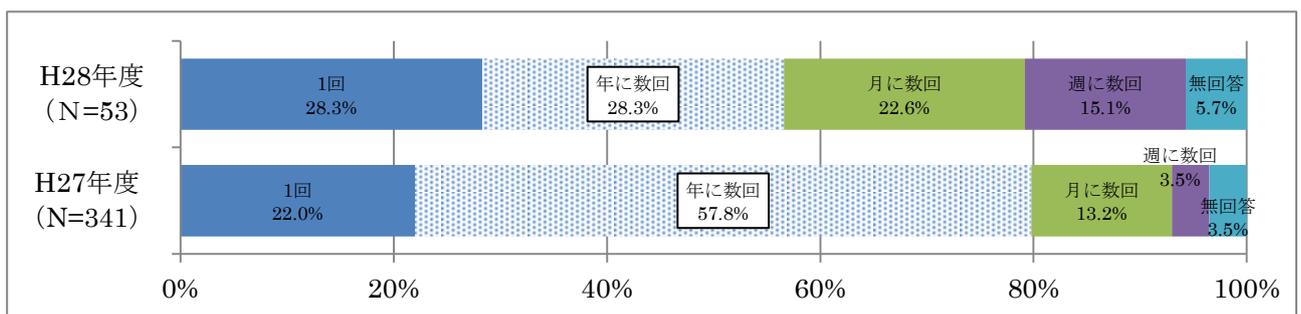
Q3 Q2で「ある」と回答した場合、それはどのような情報ですか。【複数回答可】



【状 況】 閲覧した情報のうち、最も多いものは「カルテ記事」が24人・45.3%であり、次いで、「その他」が13人・24.5%、「病名」が10人・18.9%となっている。

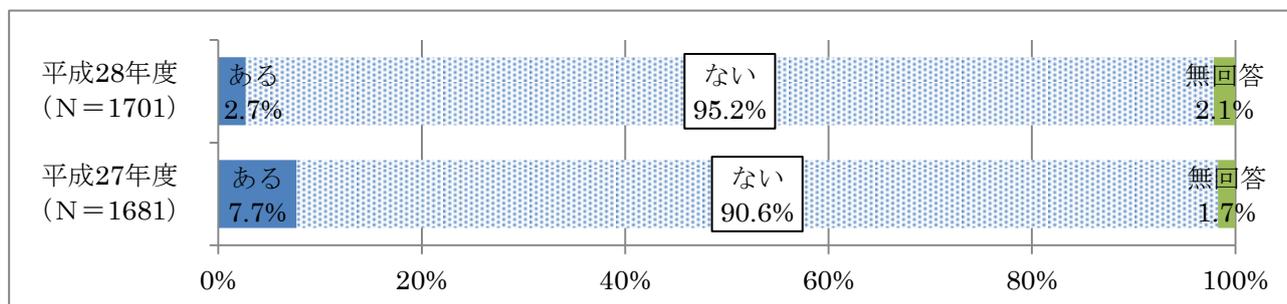
Q4 Q2で「ある」と回答した場合、頻度はどの程度ですか。最も近いと思うものを選択してください。

【1つのみ選択】



【状 況】 閲覧回数は、「1回」と「年に数回」と回答した職員が共に15人・28.3%と最も多く、次いで、「月に数回」が12人・22.6%となっている。

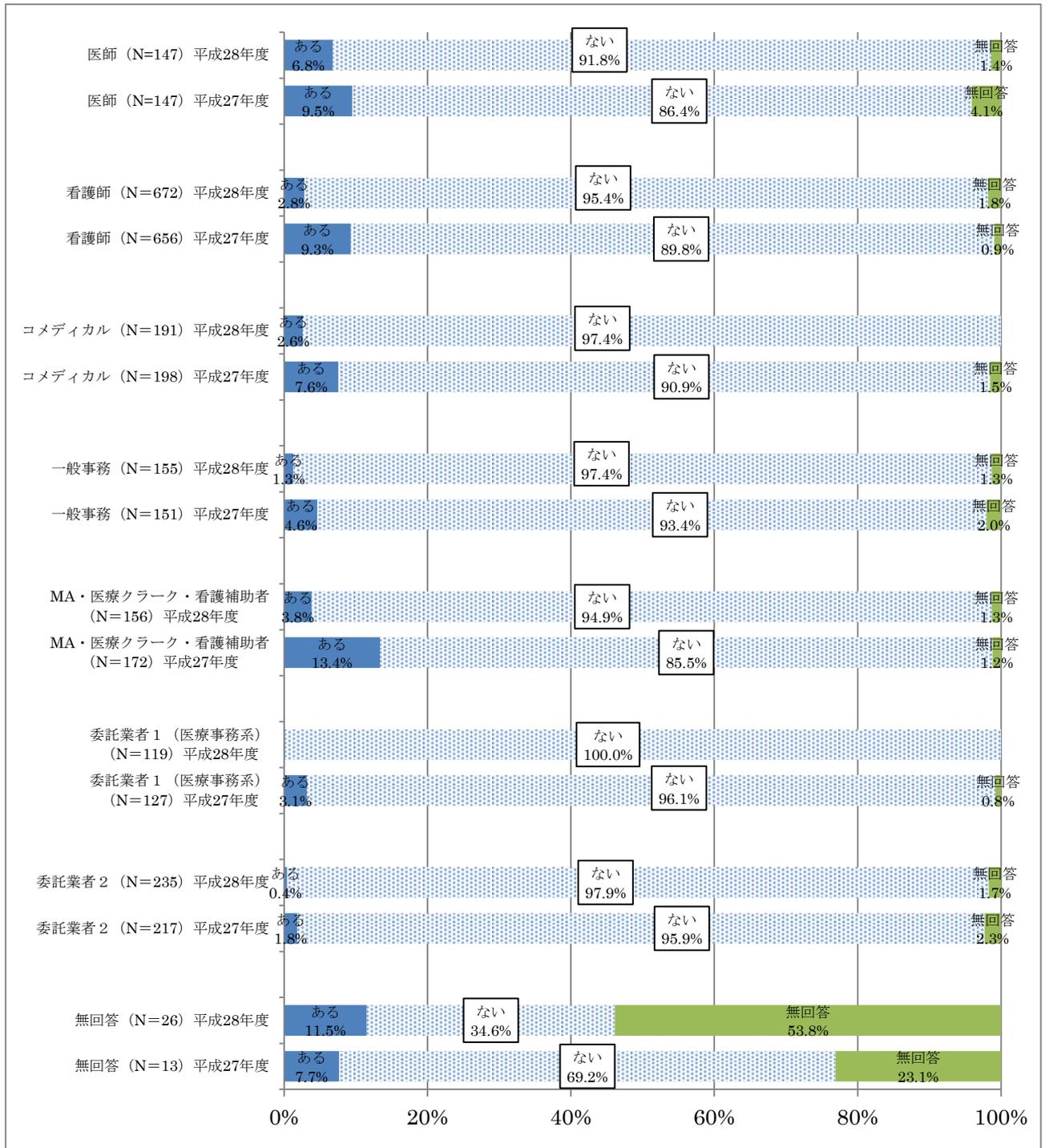
Q5 あなたは、業務に関係しない個人情報を職員に話したことがありますか。



**【状況】** 個人情報を職員に話したことが「ある」と回答した職員は、46人・2.7%となっている。昨年度の129人・7.7%と比較すると減少はしているものの、未だに2.7%の職員が存在している。

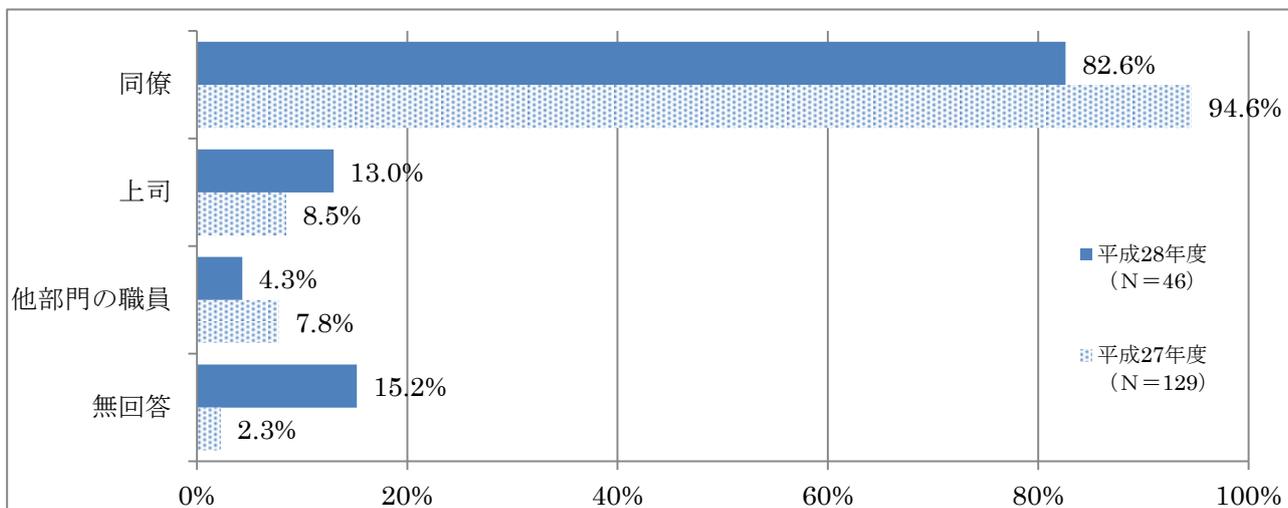
**【原因等】** 対策として講じてきた研修会等の効果が乏しいことが伺える。

**【対応策】** 具体例を交え、理解しやすい研修内容に見直したうえで、職員の意識の改善を図っていく。



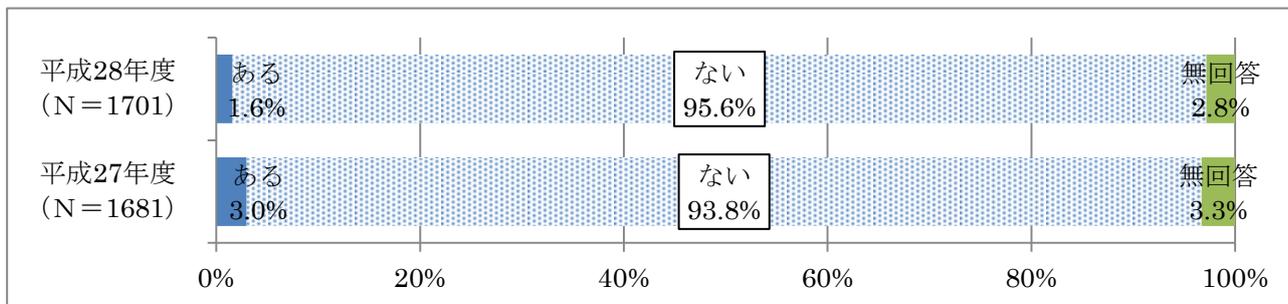
**【状 況】**「ある」と回答した職員の職種別に占める割合では、「医師」が最も多く、147人中10人・6.8%となっており、次いで「MA・医療クラーク・看護補助者」が156人中6人・3.8%、「看護師」が672人中19人・2.8%の順となっている。

Q6 Q5で「ある」と回答した場合、誰と話しましたか。【複数回答可】



【状況】 個人情報を職員に話した場合の相手は、「同僚」が38人・82.6%と最も多く、次いで「無回答」が7人・15.2%、「上司」が6人・13.0%となっている。

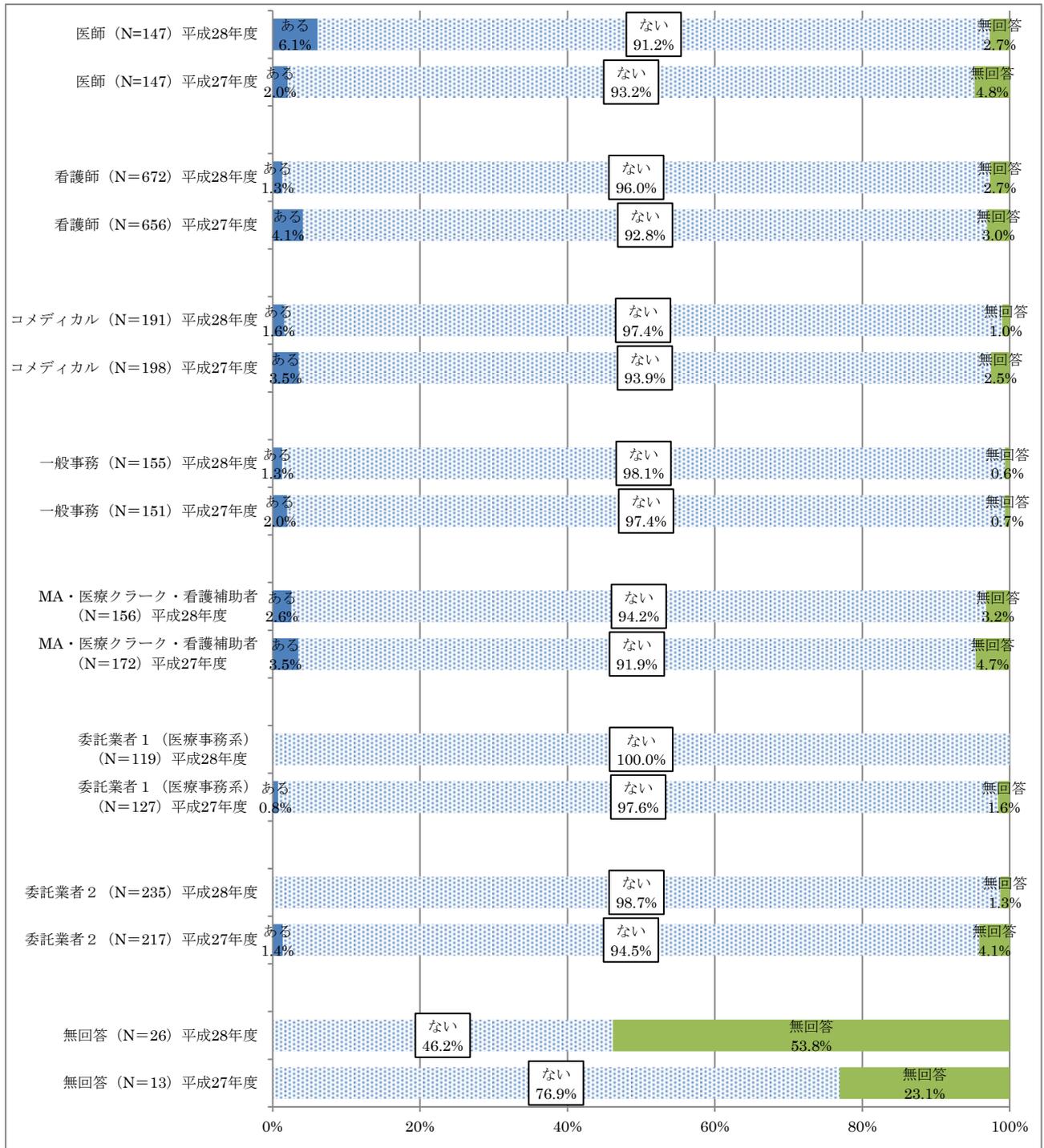
Q7 あなたは、知り得た個人情報を業務と関わりなく、職員以外に話したことがありますか。



【状況】 職員以外に話したことが「ある」と回答した職員は、未だに27人・1.6%となっている。

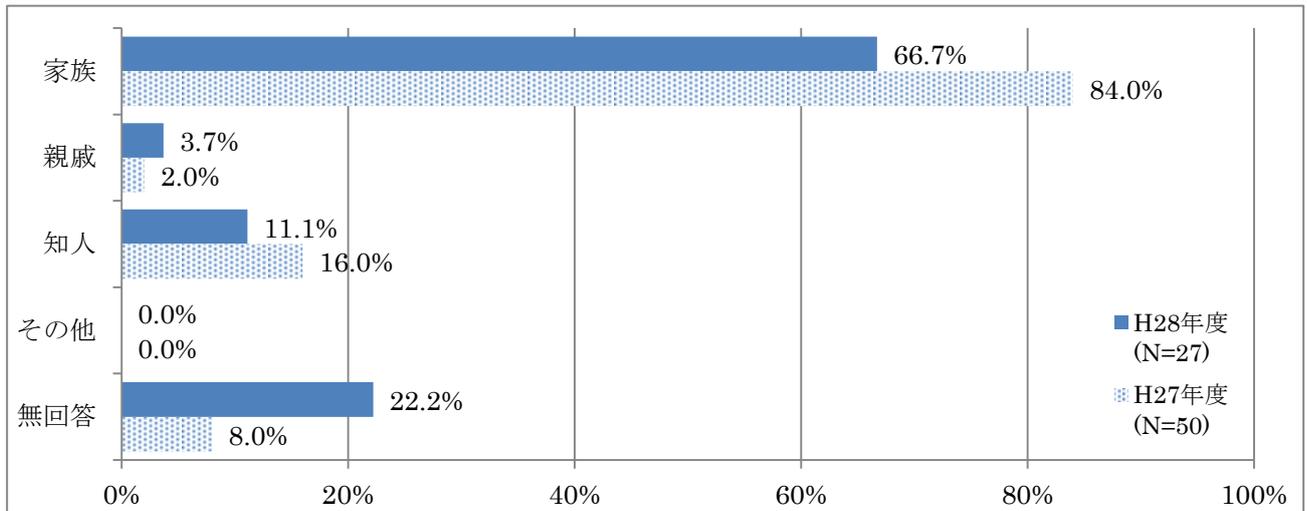
【原因等】 対策として講じてきた研修会等の効果が乏しいことが伺える。

【対応策】 具体例を交え、理解しやすい研修内容に見直したうえで、職員の意識の改善を図っていく。



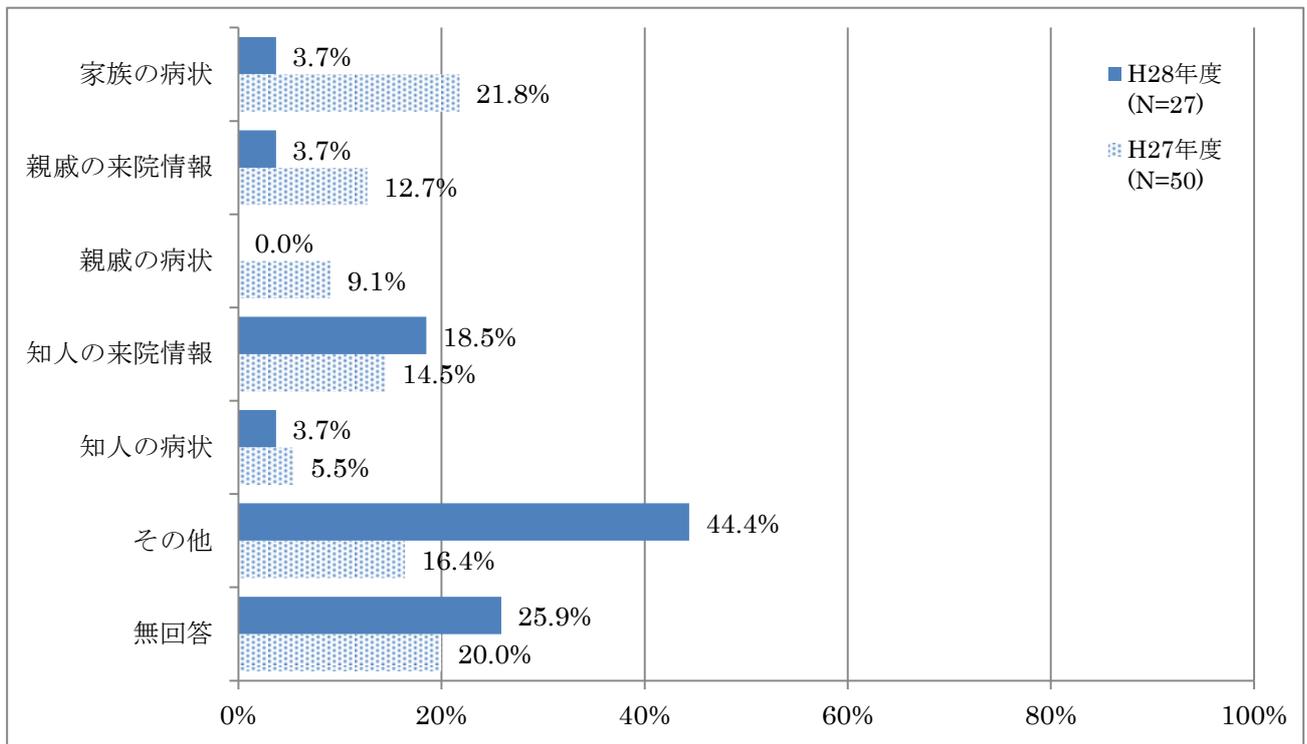
**【状 況】**「ある」と回答した職員の職種別に占める割合では、全体平均の1.6%よりも多い職種は、「医師」147人中9人・6.1%と「MA・医療クラーク・看護補助者」156人中4人・2.6%及び「コメディカル」191人中3人・1.6%となっている。

Q8 Q7で「ある」と回答した場合、誰と話しましたか。【複数回答可】



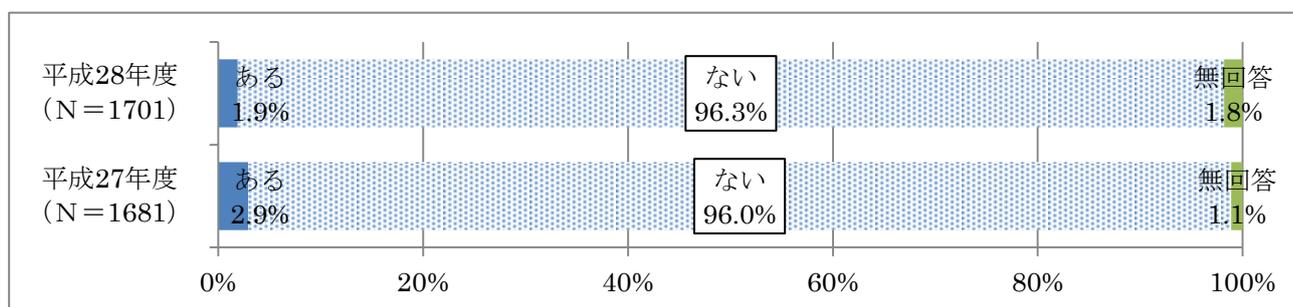
【状況】話した相手は、「家族」が18人・66.7%と最も多く、次いで、「知人」が3人・11.1%、「親戚」が1人・3.7%の順となっている。

Q9 Q7で「ある」と回答した場合、それはどんな内容ですか。具体的にお書きください。



【状況】話した内容は、「知人の来院情報」が5人・18.5%と最も多くなっている。また、「その他」が12人・44.4%となり、「自分の仕事の状況を家族と話す」という意見が複数見られた。

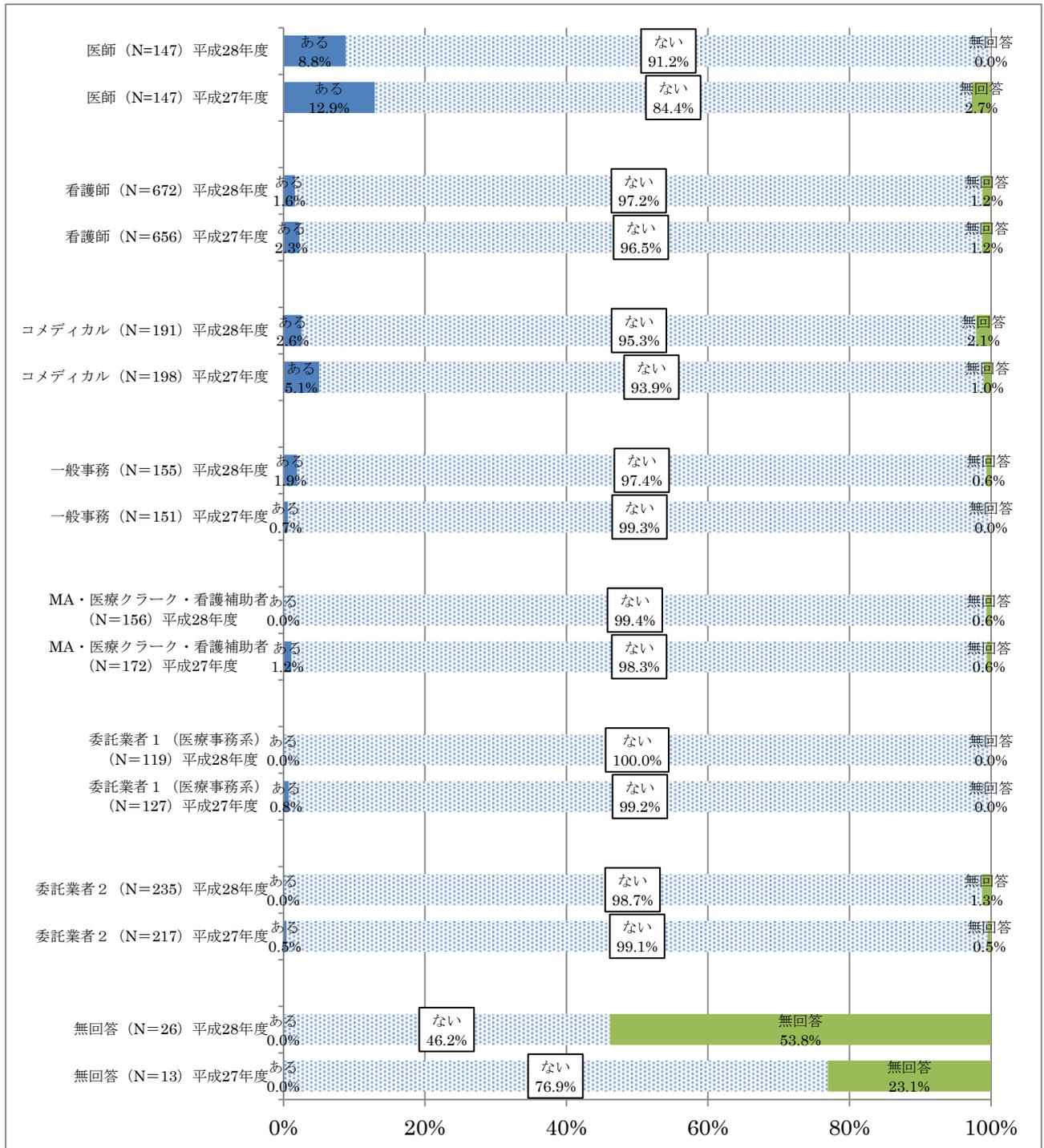
Q10 あなたは、個人情報（匿名化処理したものを除く）を院外へ持ち出したことはありますか。



**【状況】** 個人情報を院外に持ち出しについては、未だに 32 人・1.9%の職員が「ある」と回答している。

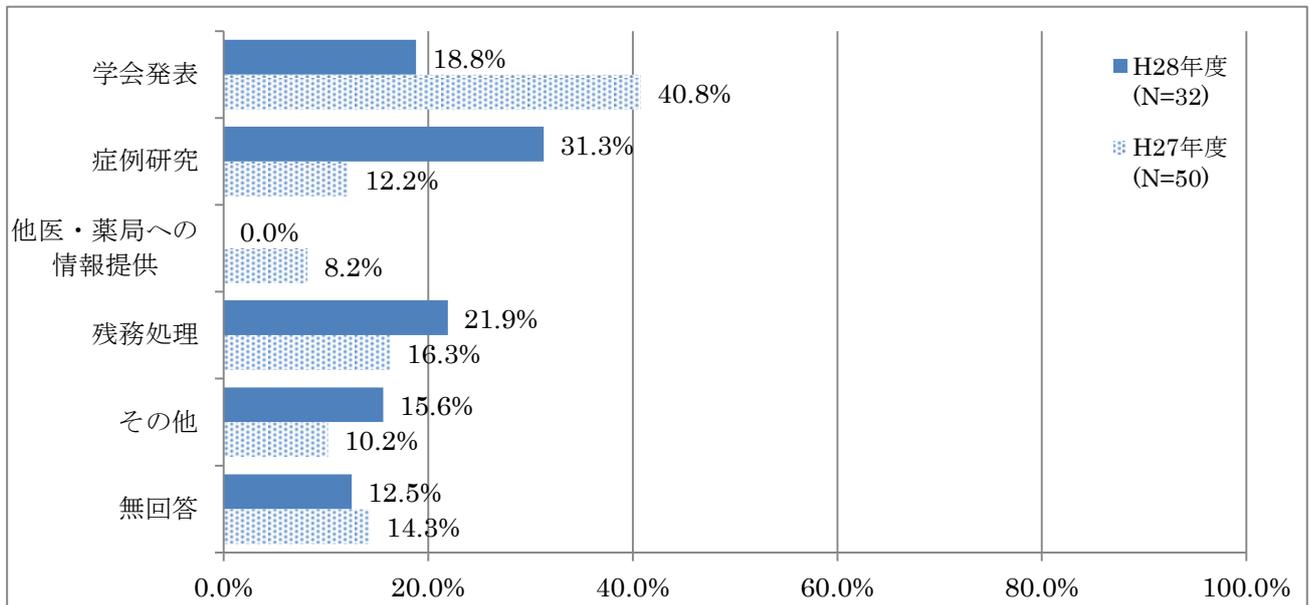
**【原因等】** 対策として講じてきた不要権限の見直しや定期的なアクセス履歴の抽出や抜き打ち調査の実施等の効果が乏しいことが伺える。

**【対応策】** 実施内容を明確に職員へ周知するとともに、実施方法の見直しをしながら、職員の意識の改善を図っていく。



【状況】「ある」と回答した職員の職種別に占める割合では、「医師」が147人中13人・8.8%と最も多く、次いで「コメディカル」が191人中5人・2.6%、「一般事務」155人中3人・1.9%の順となっている。

Q11 Q10で「ある」と回答した場合、持ち出した理由は何ですか。具体的にお書きください。

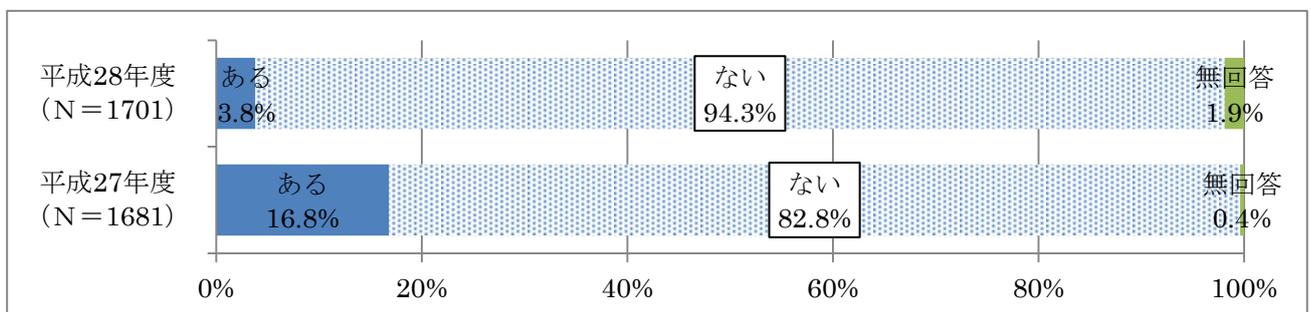


【状況】持ち出した理由は、「症例研究」が10人・31.3%と最も多く、次いで「残務処理」が7人・21.9%、「学会発表」が6人・18.8%の順となっている。

【原因等】医療現場の職員は、学会発表や症例研究のためやむを得ず持ち出す傾向があり、抑制できない原因となった。

## (2) 個人情報の取扱いにおける職場の状況について

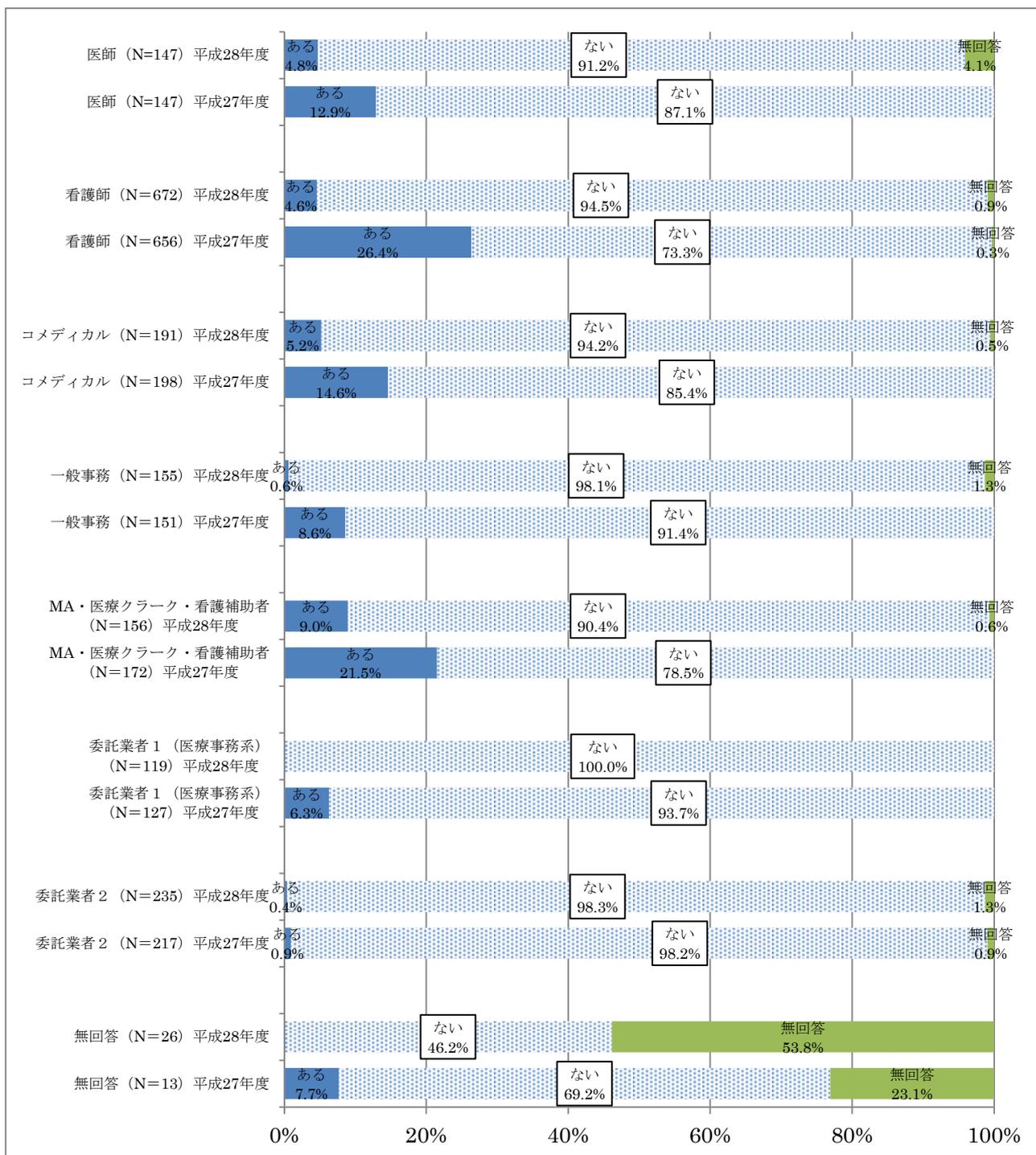
Q12 あなたは、他の職員が職場内で業務に関係しない個人情報を閲覧しているのを見たことがありますか。



【状況】他の職員が閲覧しているのを見たことが「ある」と回答した職員は、未だに64人・3.8%存在している。

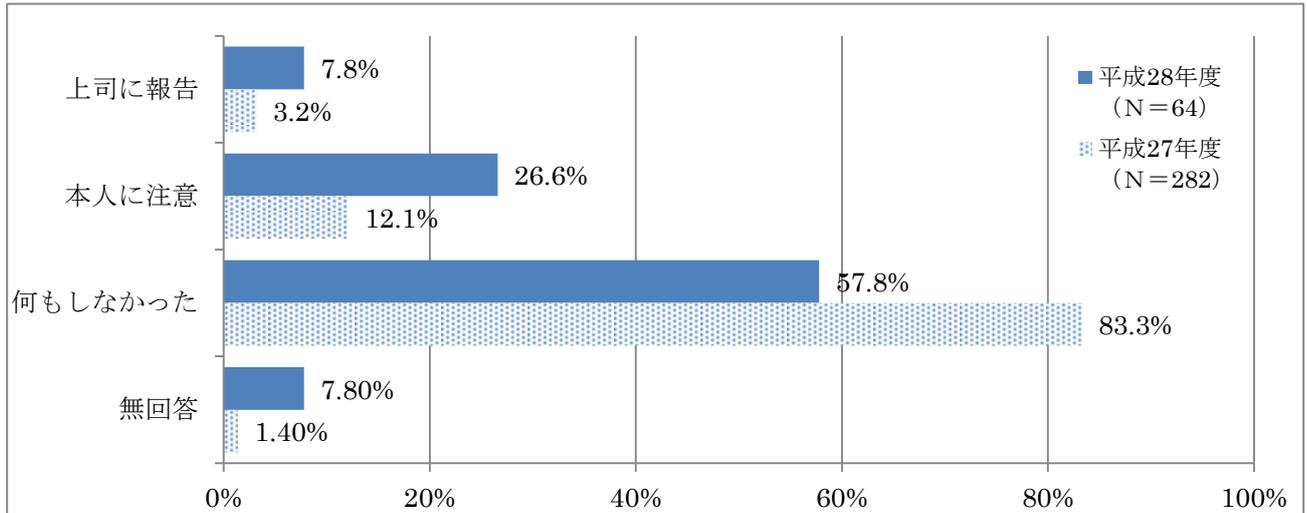
【原因等】対策として講じてきた不要権限の見直しや定期的なアクセス履歴の抽出や抜き打ち調査の実施等の効果が乏しいことが伺える。

【対応策】実施内容を明確に職員へ周知し方法の見直しをしながら、職員の意識の改善を図っていく。



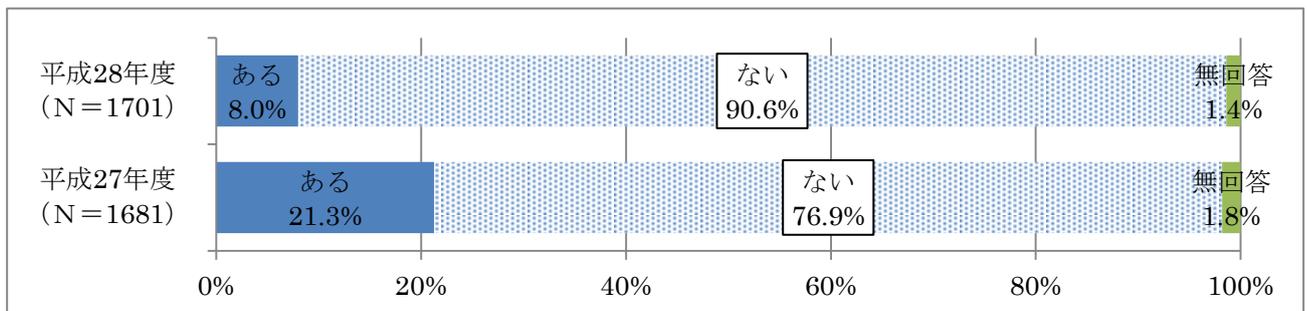
【状 況】「ある」と回答した職員の職種別に占める割合では、「MA・医療クラーク・看護補助者」156人中14人・9.0%と最も多く、次いで「コメディカル」が191人中10人・5.2%となっている。

Q13 Q12で「ある」と回答した場合、是正のためにどのような行動をしましたか。【1つのみ選択】



【状況】「ある」と回答した64人のうち、「何もしなかった」と回答した職員が37人・57.8%となっている。「上司に報告した」と回答した職員は、5人・7.8%、「本人に注意した」と回答した職員は、17人・26.6%となり、昨年度と比較しても職場内の意識の変化が感じられる結果となっている。

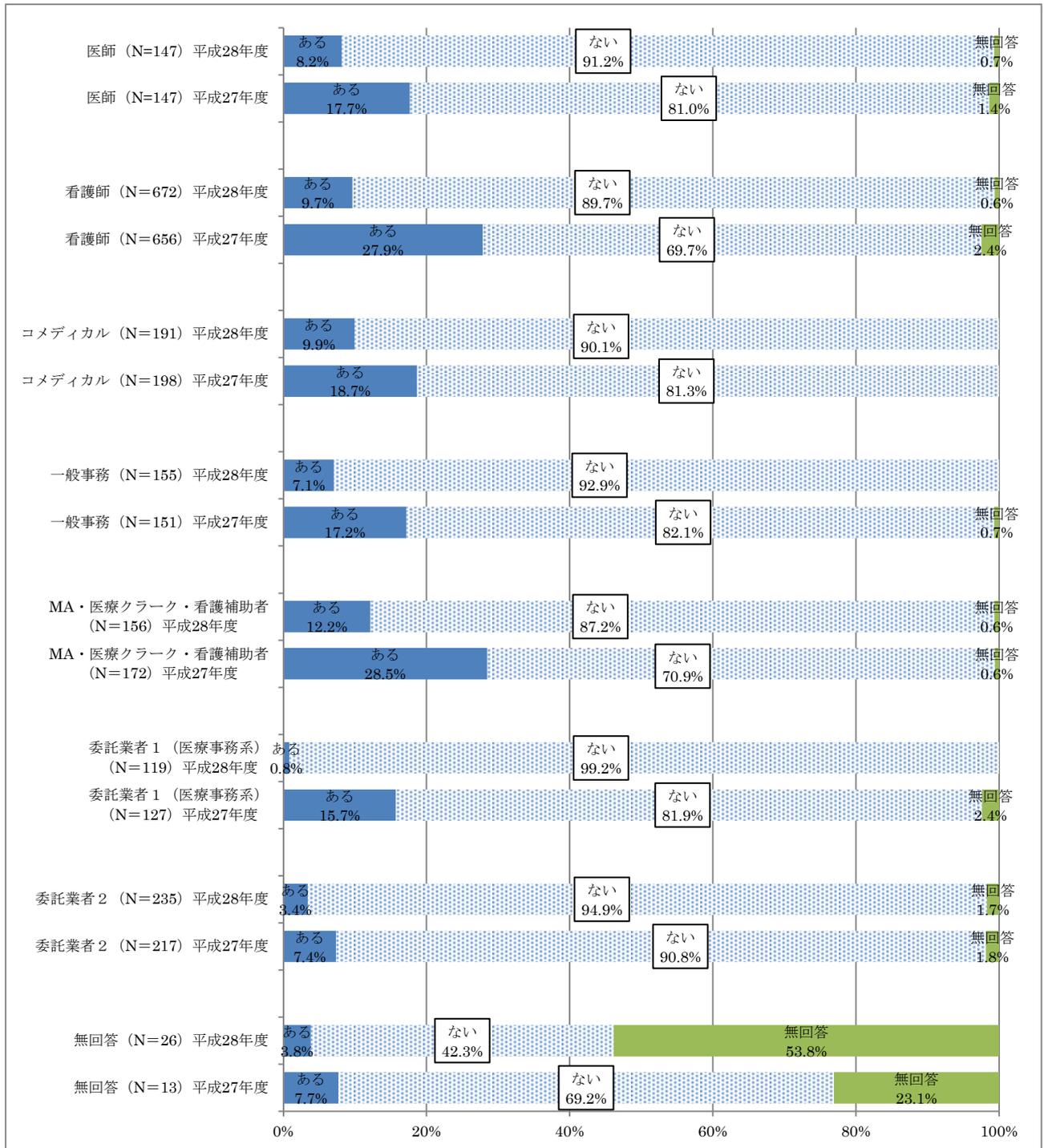
Q14 あなたは、他の職員が職場内で業務に関係しない個人情報について、会話しているのを聞いたことがありますか。



【状況】他の職員が会話しているのを聞いたことが「ある」と回答した職員は、136人・8.0%となっている。昨年度の358人・21.3%と比較しても対象職員が減少しているものの、未だに8.0%の職員が存在している。

【原因等】対策として講じてきた研修会等の効果が乏しいことが伺える。

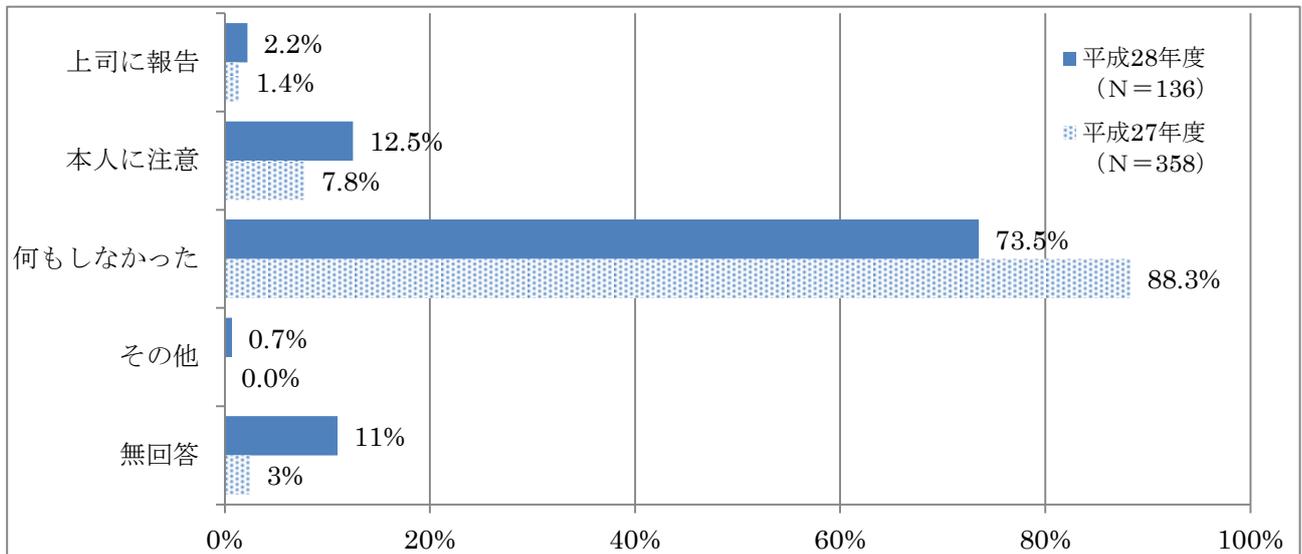
【対応策】具体例を交え、理解しやすい研修内容に見直したうえで、職場内での意識の改善を図っていく。



【状況】「ある」と回答した職員の職種別に占める割合では、「MA・医療クラーク・看護補助者」が156人中19人・12.2%と最も多く、次いで「コメディカル」が191人中19人・9.9%となっている。

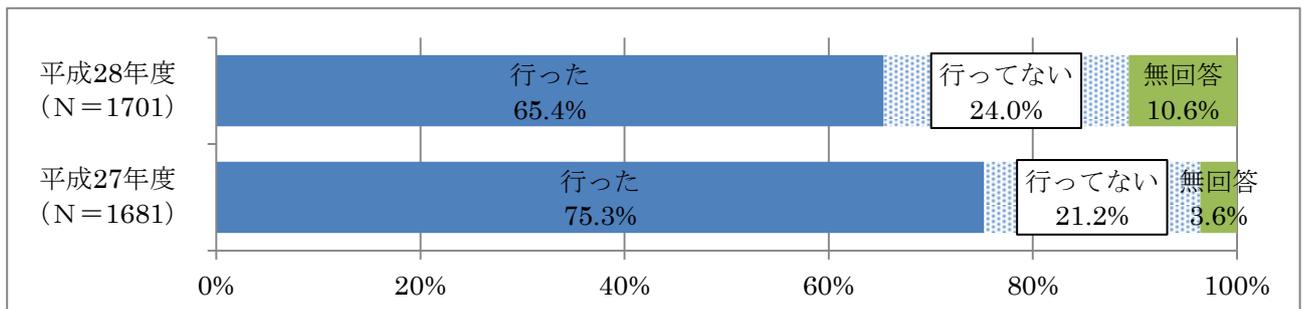
Q15 Q14で「ある」と回答した場合、是正のためにどのような行動をしましたか。

【1つのみ選択】



【状況】「ある」と回答した136人のうち、「何もしなかった」と回答した職員が100人・73.5%となっている。「上司に報告した」と回答した職員は3人・2.2%、「本人に注意した」と回答した職員は17人・12.5%となり、昨年度と比較しても職場内の意識の変化が感じられる結果となっている。

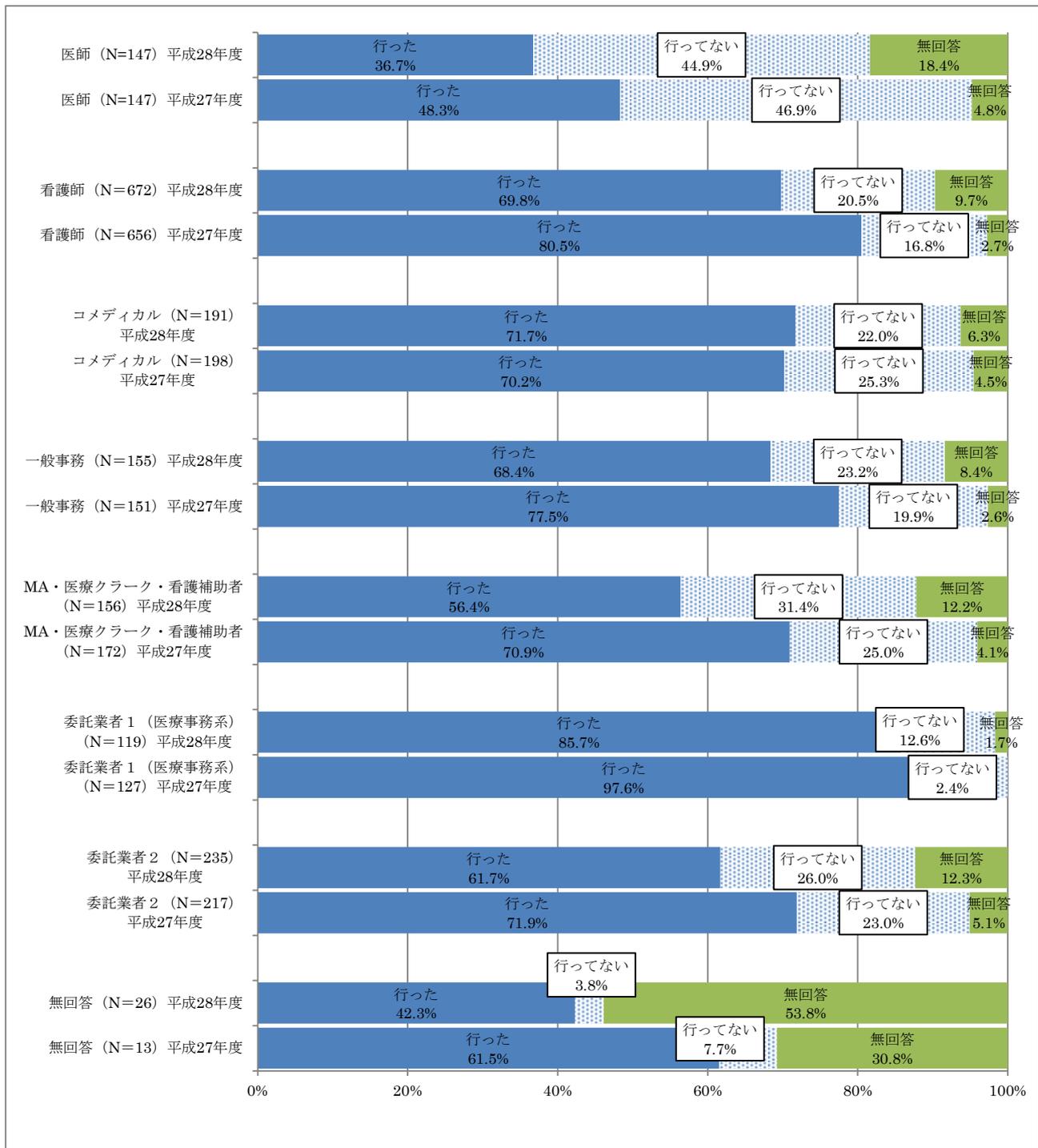
Q16 今回の不祥事を踏まえ、職場として注意喚起や再発防止のための話し合い等を行いましたか。



【状況】注意喚起や再発防止の話し合い等を「行った」と回答した職員は1,112人・65.4%となり、昨年度と比較すると9.9%悪化した。

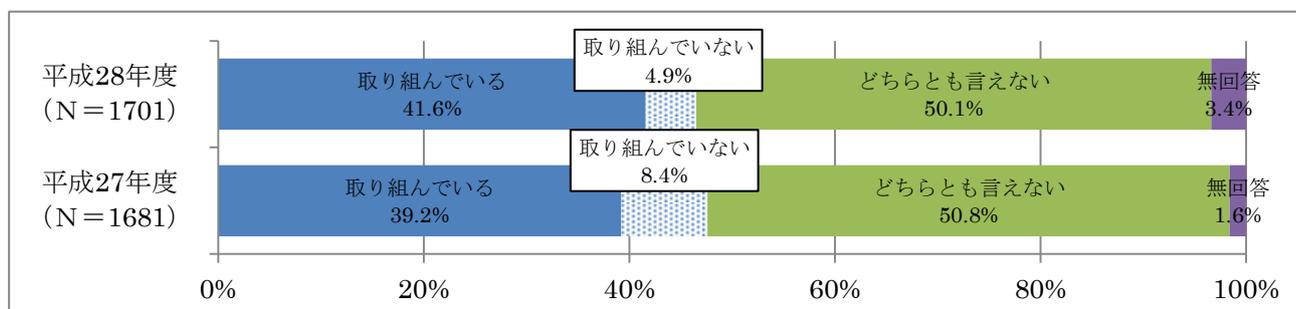
【原因等】昨年度の取り組みで意識が向上したと認識している職員がいる傾向がある。ただし、継続性を考慮すれば、対策として講じてきた研修会等の効果が乏しいことが伺える。

【対応策】職員研修を通して、継続性の重要性を伝えながら、職場内での意識の改革を図っていく。



**【状況】**「行った」と回答した職員の職種別に占める割合では、「委託業者1（医療事務系）」が119人中102人・85.7%と最も多く、次いで「コメディカル」が191人中137人・71.7%となっている。特に「委託業者1（医療事務系）」は、研修会、勉強会の他に職員同士の注意喚起や声かけ、離席時のスクリーンセイバーの活用、確認用のチェックシートを活用し積極的に取り組んでいる傾向が見受けられた。

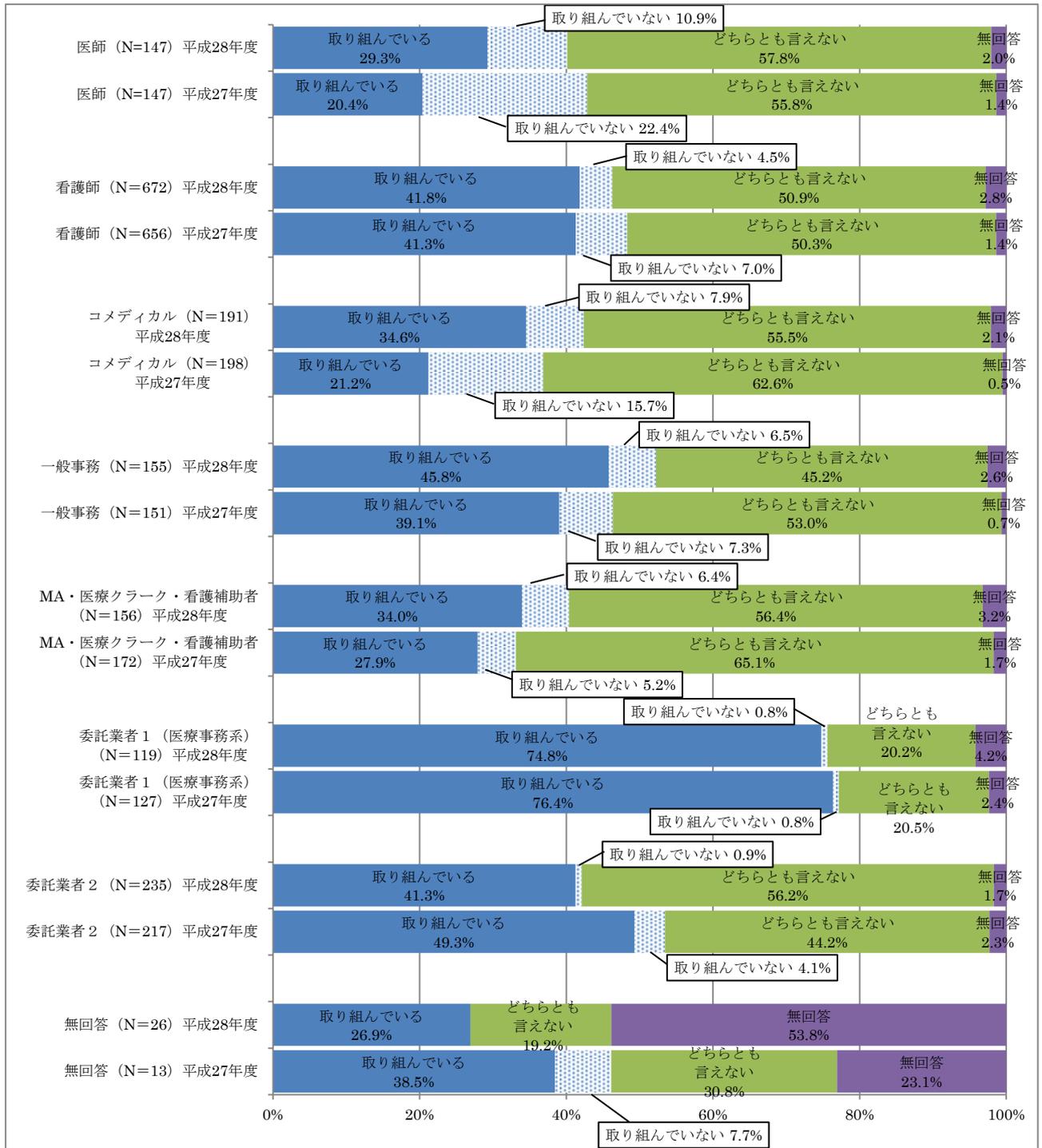
Q17 あなたの職場では、個人情報の適切な取扱いについて、日頃から互いに注意し合うなど、職場全体で積極的に取り組んでいますか。



**【状 況】** 個人情報の取扱いは、1,701人のうち707人・41.6%が「取り組んでいる」と回答したのに対し、1,701人のうち852人・50.1%が「どちらとも言えない」と回答し半数を占め、1,701人のうち84人・4.9%が「取り組んでいない」であったことから、職員一人ひとりの意識の変化が職場全体の取り組みに影響していることが伺える結果となっている。

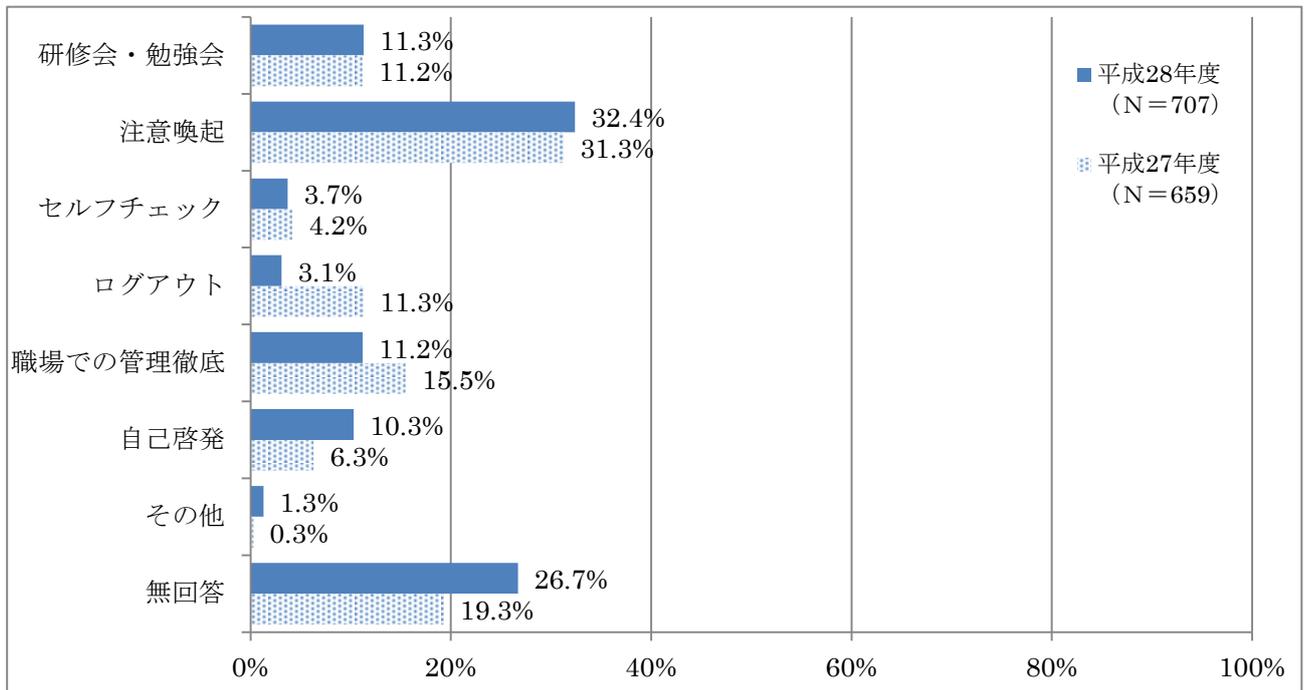
**【原因等】** 対策として講じてきた参加型研修会や公益通報者保護制度の周知徹底等の効果が乏しいことが伺える。

**【対応策】** 具体例を交えた理解しやすい研修内容の見直しや、公益通報者保護制度の周知を定期的に行い、職場内での意識の改善を図っていく。



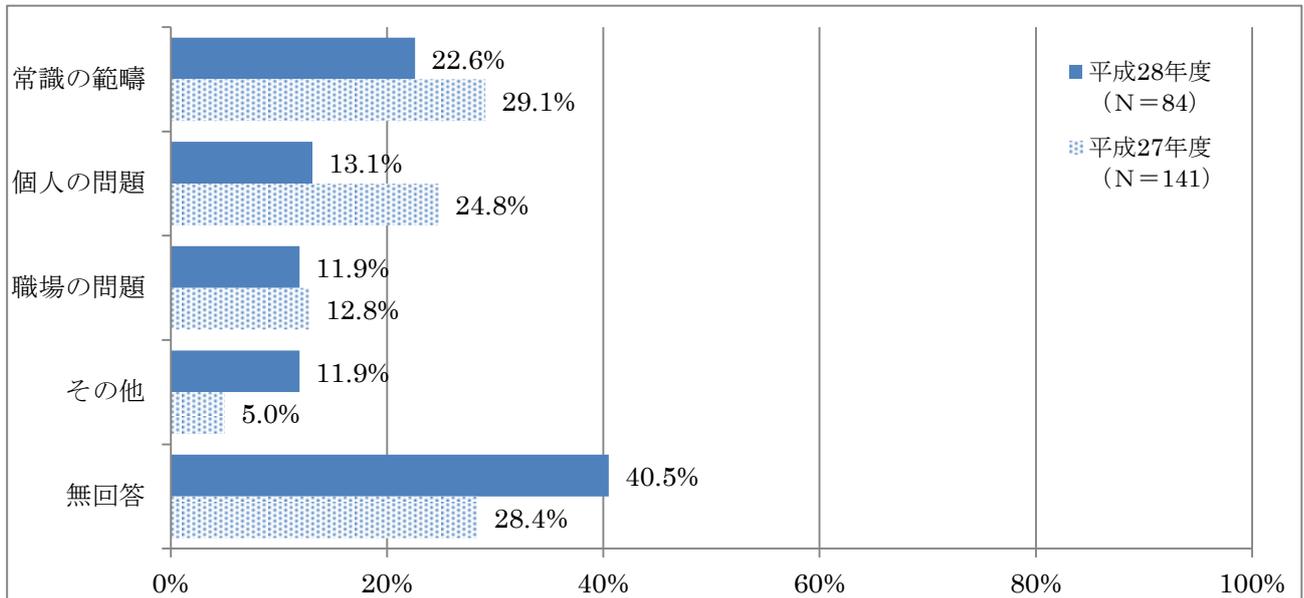
【状況】「改善に取り組んでいる」と回答のあったうち、職員の職種別に占める割合では、「委託業者1（医療事務系）」が119人のうち89人・74.8%で最も多く、次いで、「一般事務」が155人のうち71人・45.8%、「看護師」が672人のうち281人・41.8%の順となっている。

Q18 Q17で「取り組んでいる」と回答した場合、どんな取り組みですか。具体的にお書きください。



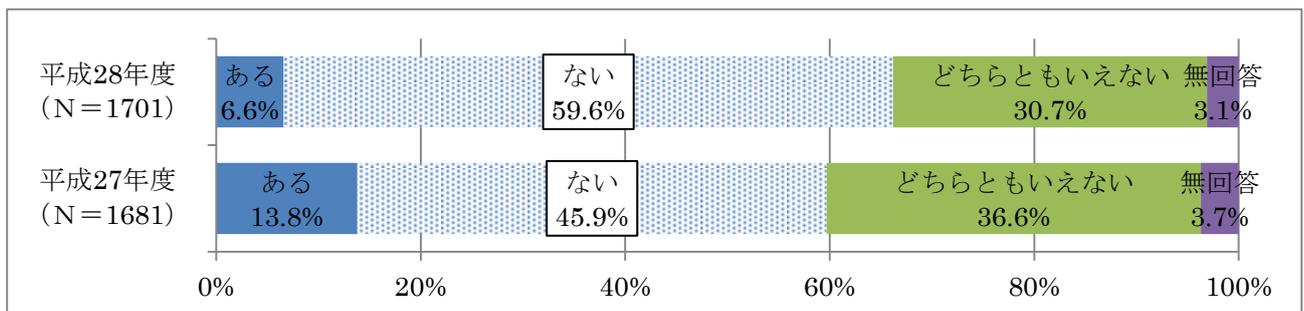
【状況】「具体的な取り組み」は、「取り組んでいる」と回答した 707 人のうち、「注意喚起」が 229 人・32.4%で最も多く、次いで「無回答」が 189 人・26.7%、「研修会・勉強会」が 80 人・11.3%の順であった。

Q19 Q17で「取り組んでいない」と回答した場合、その原因は何だと思いますか。具体的にお書きください。



【状況】「取り組んでいない」と回答した84人のうち、34人・40.5%が「無回答」と最も多く、次いで19人・22.6%が「常識の範疇」の順であった。

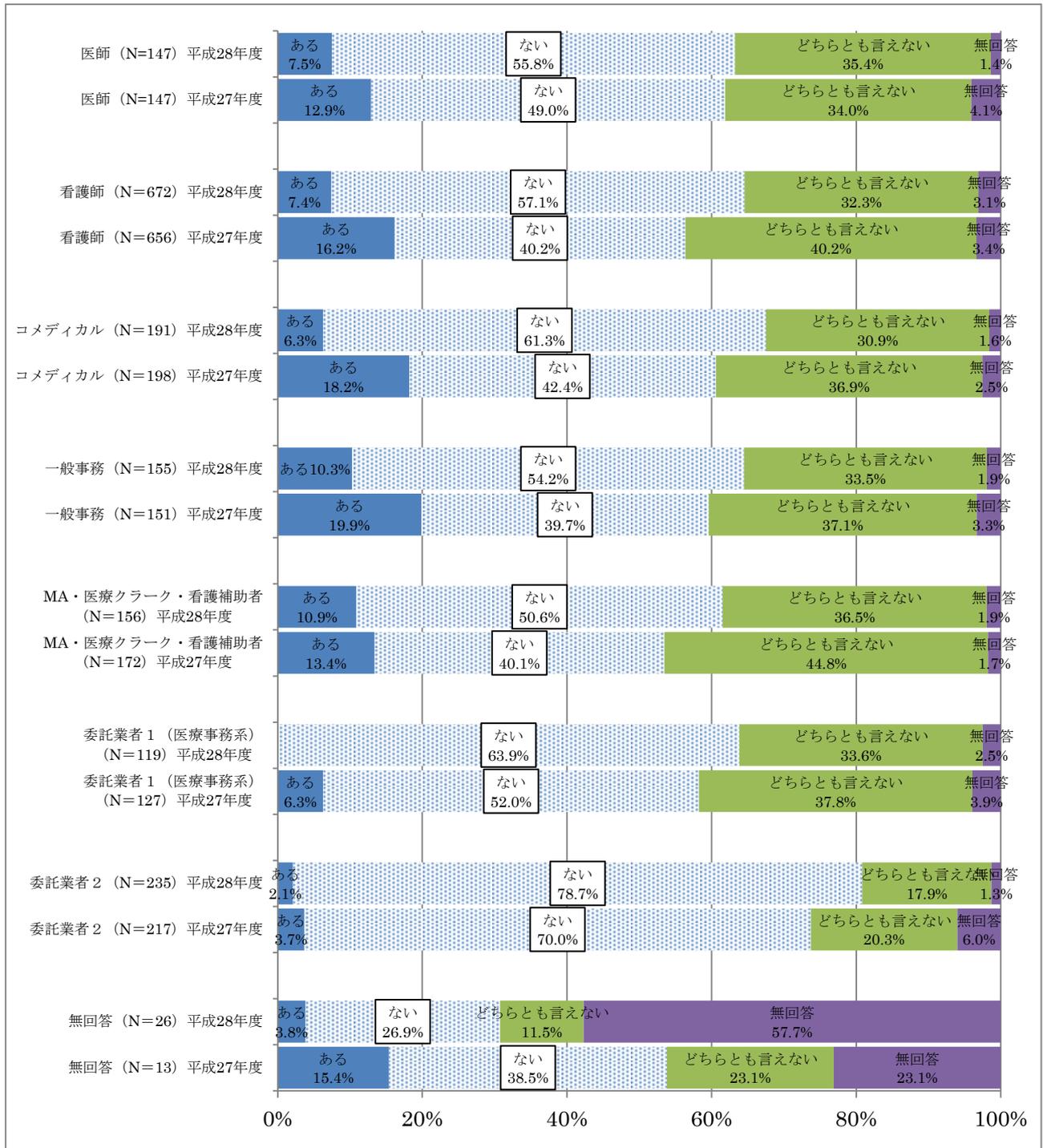
Q20 あなたの職場における個人情報の取扱いについて、問題があると感じたことはありますか。



【状況】個人情報の取扱いは、1,701人のうち112人・6.6%が「問題がある」と回答し、昨年度と比較し7.2%改善が伺える結果となっているが、未だに6.6%の職員が存在している。

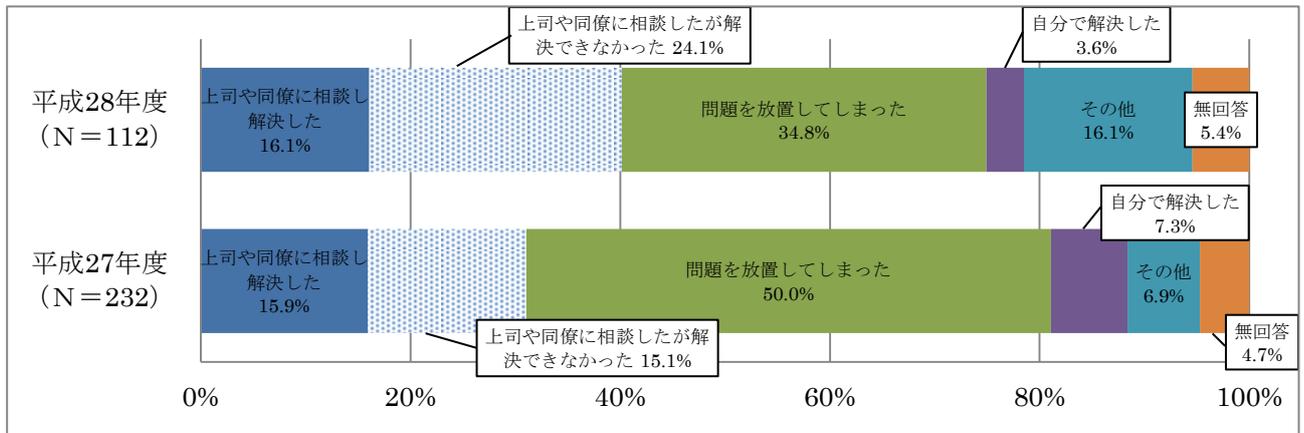
【原因等】対策として講じてきた参加型研修会や処分基準の見直し、能力開発を主眼とした人事評価制度の効果が乏しいことが伺える。

【対応策】具体例を交えた理解しやすい研修内容の見直しや、処分基準の明確化、人事評価制度の塾度を向上させながら、職場内での意識の改善を図っていく。

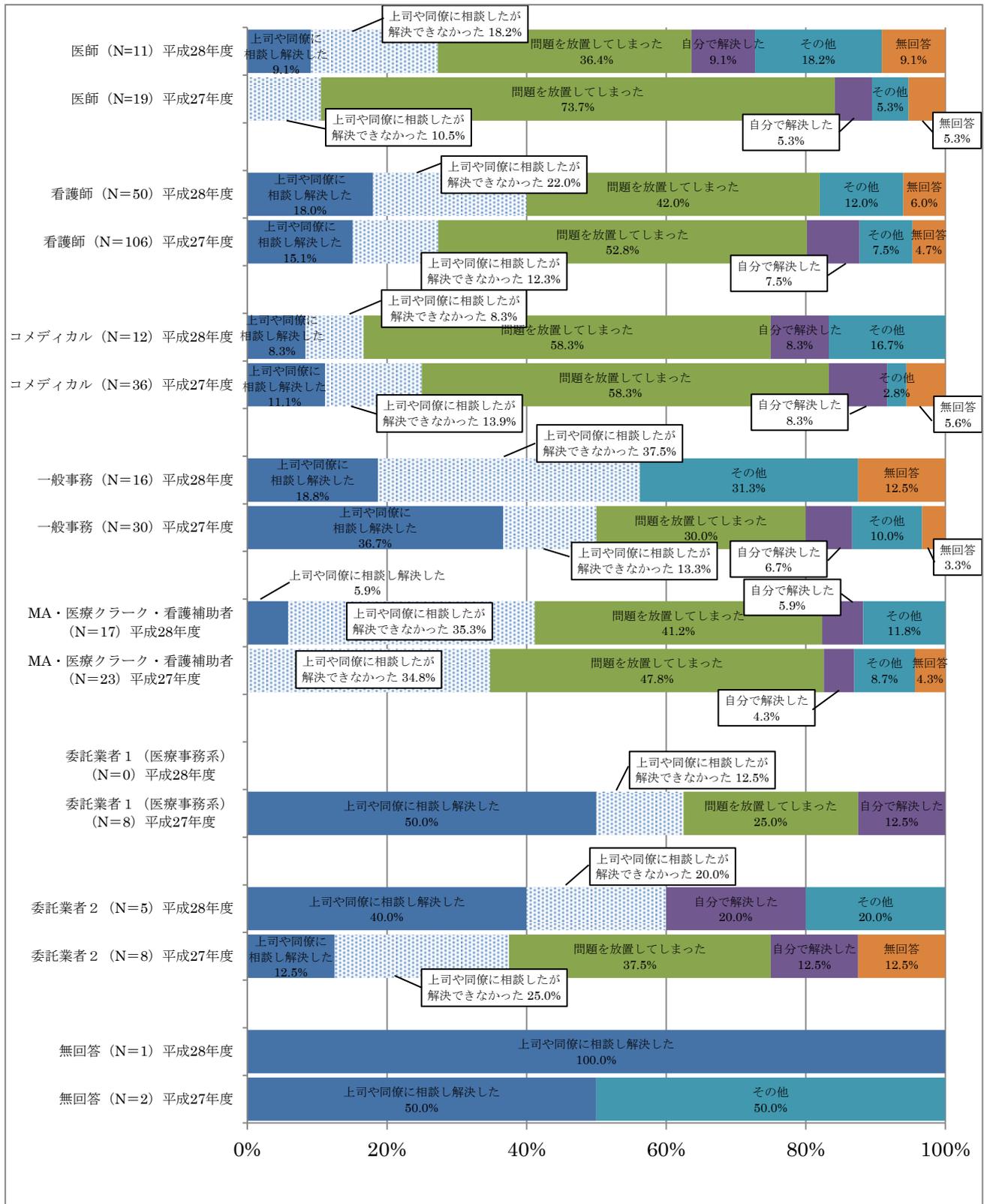


【状況】「問題がある」と回答のあったうち、職員の職種別に占める割合では、156人中17人・10.9%が「MA・医療クラーク・看護補助者」と最も多く、次いで155人中16人・10.3%で「一般事務」、147人中11人・7.5%で「医師」の順となっている。

Q21 Q20で「ある」と回答した場合、どのような対応をとりましたか。【1つのみ選択】

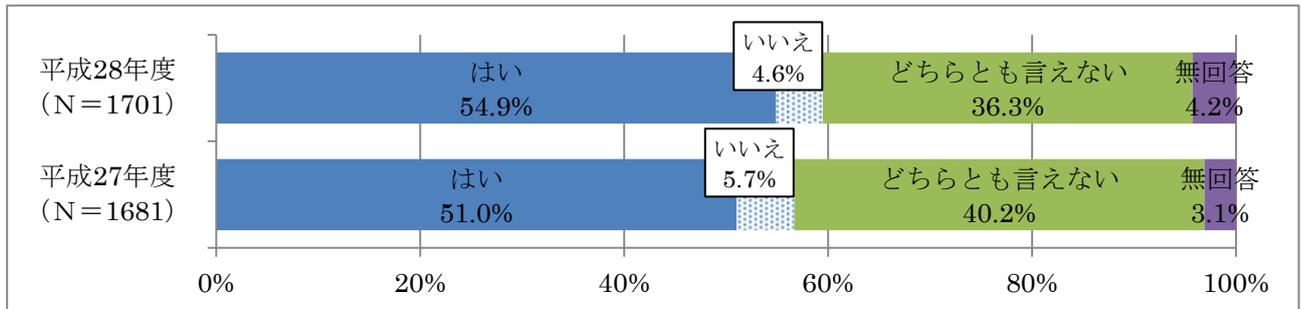


【状況】「対応」は、112人のうち、39人・34.8%が「問題を放置してしまった」と、回答し、昨年度と比較すると15.2%減少している。



【状 況】「問題を放置してしまった」と回答した職員の職種別に占める割合では、「コメディカル」が12人のうち、7人・58.3%と最も多く、次いで「看護師」が50人のうち、21人・42.0%、「MA・医療クラーク・看護補助者」が17人のうち7人・41.2%、「医師」が11人のうち4人・36.4%の順となっている。

Q22 あなたの職場では、個人情報の取扱いについて、誰でも率直な意見を言うことができ、その意見を周囲の人がきちんと聞いていますか。



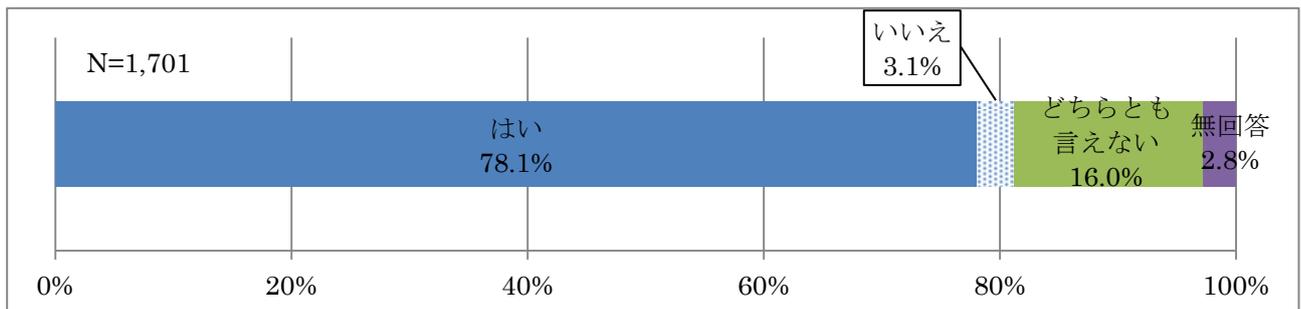
**【状況】** 率直な意見交換ができる職場環境は、1,701人のうち、934人・54.9%が「誰でも率直な意見が言える職場」と回答し、前年度と比較すると3.9%改善が伺える結果となっているが、「いいえ」、「どちらとも言えない」が40%を超える割合を占めている。

**【原因等】** 対策として講じてきた研修会等の効果が乏しいことが伺える。

**【対応策】** 具体例を交え、理解しやすい研修内容に見直したうえで、職場内での意識の改善を図っていく。

### (3) 個人情報の取扱いに伴い、現在改善策として取り組んでいる対策について

Q23 個人情報の取扱いの改善策として、全職員を対象にした参加型研修を行っていますが、効果的だと思いますか。



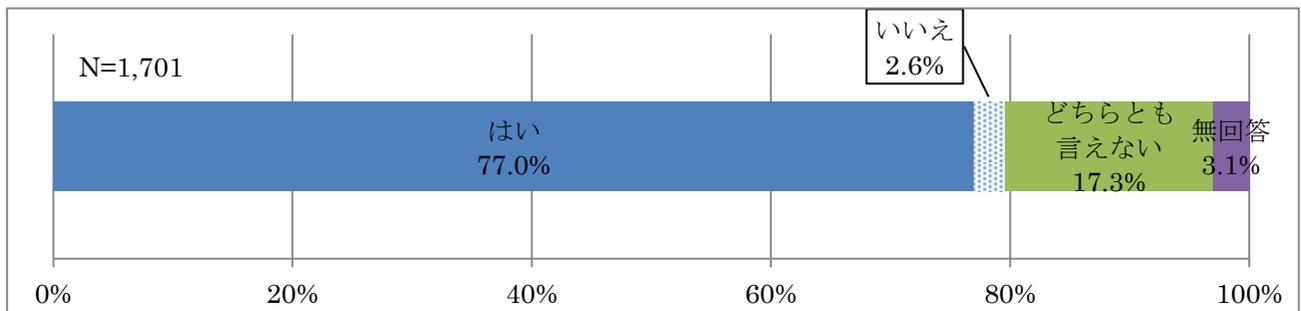
参加型研修会実施が効果的だと考えているかについて、「はい」と回答した職員は、1,701人中1,328人・78.1%と半数を超えている。一方、「どちらとも言えない」と回答した職員が273人・16.0%であり、「いいえ」と回答した職員は、53人・3.1%となっている。

Q24 Q23 で「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した場合、なぜそう思いましたか。また、改善方法があればご記入ください。

【主な意見】

- ・研修を受講しても個人のモラルの問題なので効果は疑問である。
- ・個人が意識しない限り改善は難しい。
- ・研修を実施しても本人の意識の問題だと思うので研修直後などは効果的だと思うが時間がたてば意識は薄れていくと思う。

Q25 個人情報情報の取扱いの改善策として、労務管理に関する管理監督者研修会を行っていますが、効果的だと思いますか。



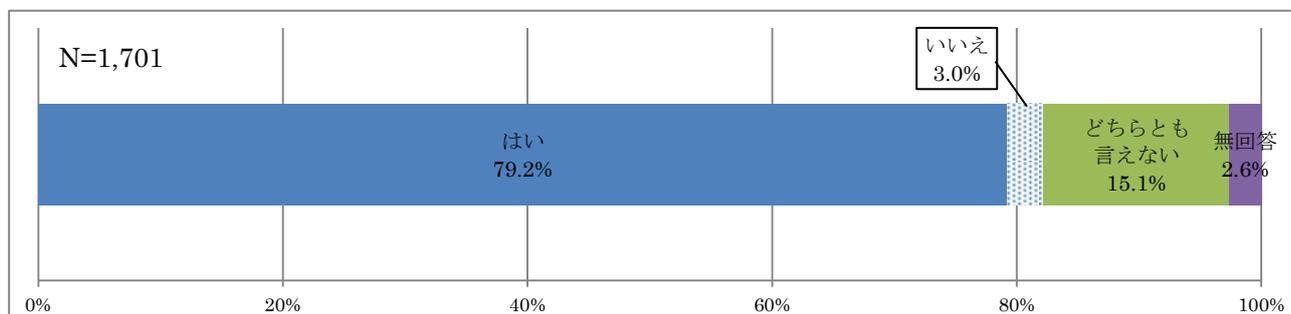
労務管理に関する管理監督者研修会実施が効果的だと考えているかについて、「はい」と回答した職員は、1,701人中1,310人・77.0%と半数を超えている。一方、「どちらとも言えない」と回答した職員が295人・17.3%であり、「いいえ」と回答した職員は、44人・2.6%となっている。

Q26 Q25 で「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した場合、なぜそう思いましたか。また、改善方法があればご記入ください。

【主な意見】

- ・管理監督者だけの問題ではないと思う。
- ・公務員として、職業人としてのモラルの問題である。
- ・職場環境が変わらないので効果を実感できない。

Q27 個人情報の取扱いの改善策として、公益通報窓口の設置や公益通報に関する研修会を行っていますが、効果的だと思いますか。



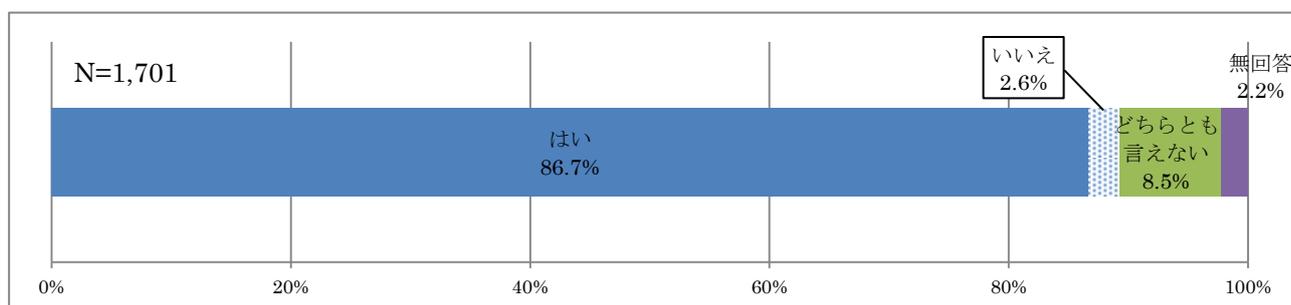
公益通報窓口の設置や公益通報に関する研修会実施が効果的だと考えているかについて、「はい」と回答した職員は、1,701人中1,348人・79.2%と半数を超えている。一方、「どちらとも言えない」と回答した職員が257人・15.1%であり、「いいえ」と回答した職員は、51人・3.0%となっている。

Q28 Q27で「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した場合、なぜそう思いましたか。また、改善方法があればご記入ください。

#### 【主な意見】

- ・公益通報窓口の設置などの情報を知っていても、通報するかどうかはわからない。
- ・通報者に不利益が生じないように対応すると周知されているが、それが保障されるかは疑わしい。

Q29 個人情報の取扱いの改善策として、電子カルテの閲覧制限機能の充実強化を行っていますが、効果的だと思いますか。



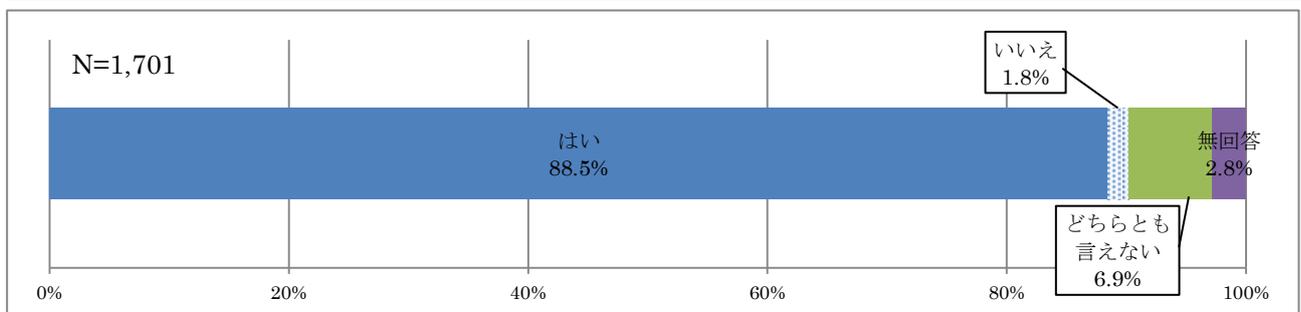
電子カルテの閲覧制限機能の充実強化が効果的だと考えているかについて、「はい」と回答した職員は、1,701人中1,474人・86.7%と半数を超えている。一方、「どちらとも言えない」と回答した職員が145人・8.5%であり、「いいえ」と回答した職員は、44人・2.6%となっている。

Q30 Q29 で「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した場合、なぜそう思いましたか。また、改善方法があればご記入ください。

【主な意見】

- ・個人の意識が定着しなければ意味がない。
- ・どんな制限がされていて、どんな効果が出ているかみえない。
- ・閲覧の制限よりは、研修体制や抜き打ち調査の実施、強化が効果的である。

Q31 個人情報の取扱いの改善策として、電子カルテの閲覧履歴の参照機能の充実強化を行っています。が、効果的だと思いますか。



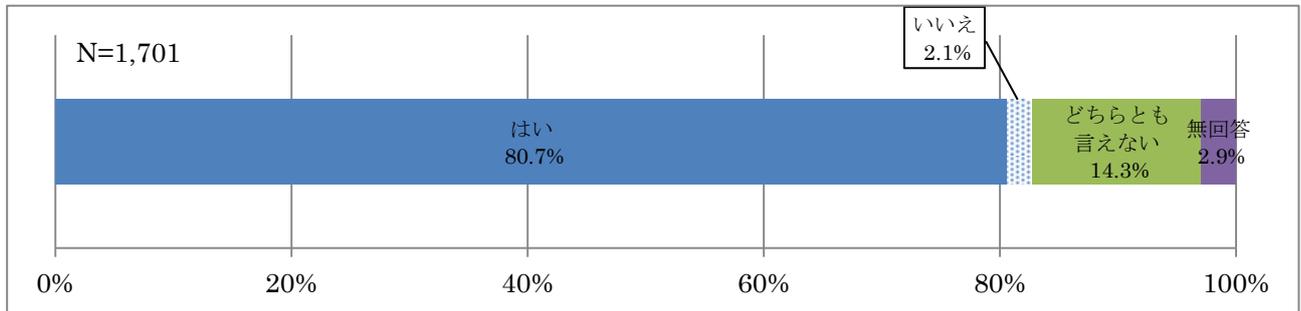
電子カルテの閲覧履歴の参照機能の充実強化が効果的だと考えているかについて、「はい」と回答した職員は、1,701人中1,505人・88.5%と半数を超えている。一方、「どちらとも言えない」と回答した職員が118人・6.9%であり、「いいえ」と回答した職員は、30人・1.8%となっている。

Q32 Q31 で「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した場合、なぜそう思いましたか。また、改善方法があればご記入ください。

【主な意見】

- ・具体的にどうなっているのか、また周知されているか不明である。
- ・セキュリティーをもっと強化することが必要だと思う。
- ・閲覧履歴の参照機能がどのように活用されるのか理解できないので、その効果も不明である。

Q33 個人情報の取扱いの改善策として、職種及び経験年数に応じたシステム操作研修を行っています。効果的だと思いますか。



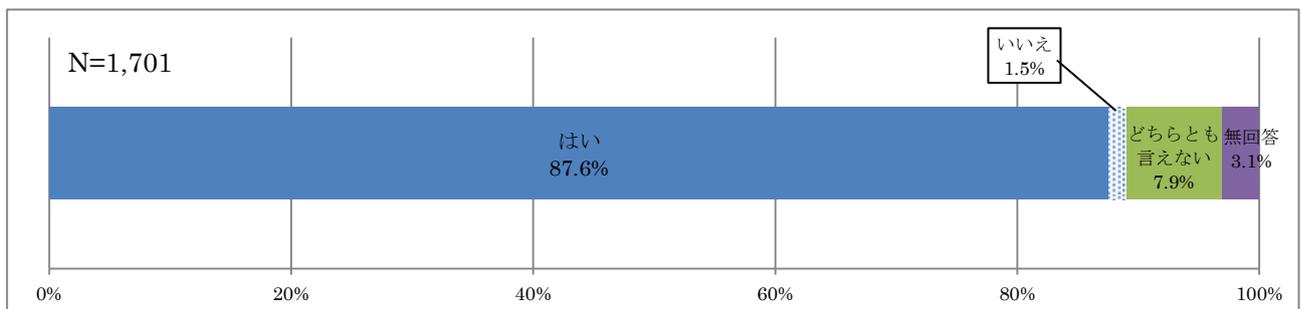
職種及び経験年数に応じたシステム操作研修の実施が効果的だと考えているかについて、「はい」と回答した職員は、1,701人中1,372人・80.7%と半数を超えている。一方、「どちらとも言えない」と回答した職員が244人・14.3%であり、「いいえ」と回答した職員は、35人・2.1%となっている。

Q34 Q33で「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した場合、なぜそう思いましたか。また、改善方法があればご記入ください。

【主な意見】

- ・経験年数によって取扱いが変わらないと思う。
- ・個人の資質まで変化をもたらすとは思えない。
- ・継続していくことで徐々には効果が出ると思う。

Q35 個人情報の取扱いの改善策として、職種に応じた不要権限の見直しを行っています。効果的だと思いますか。



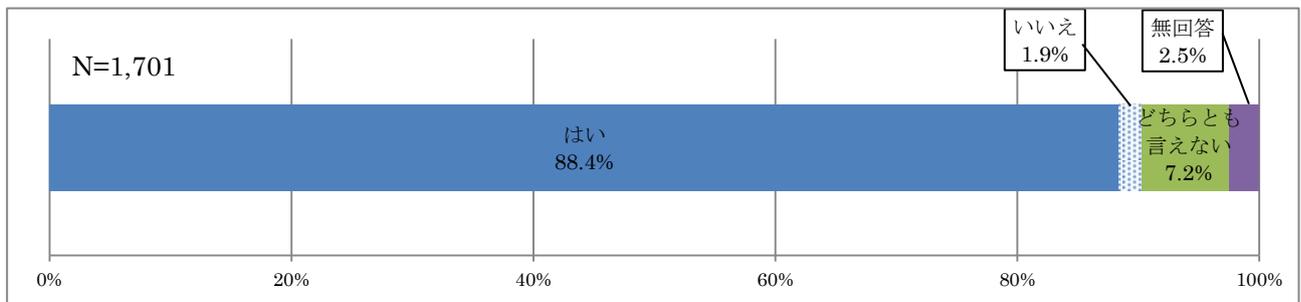
職種に応じた不要権限の見直しが効果的だと考えているかについて、「はい」と回答した職員は、1,701人中1,490人・87.6%と半数を超えている。一方、「どちらとも言えない」と回答した職員が134人・7.9%であり、「いいえ」と回答した職員は、25人・1.5%となっている。

Q36 Q35 で「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した場合、なぜそう思いましたか。また、改善方法があればご記入ください。

【主な意見】

- ・職種での制限にも限界がある。
- ・結果が全然見えないので改善されているかわからない。
- ・不要権限の見直しがどう影響してくるかよくわからない。

Q37 個人情報の取扱いの改善策として、定期的及び抜き打ちによるアクセス履歴の抽出の実施を行っています。効果的だと思いますか。



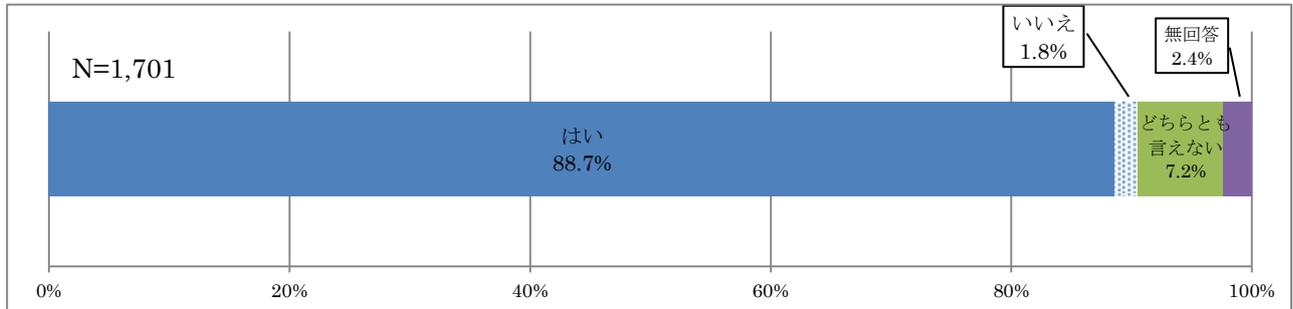
定期的及び抜き打ちによるアクセス履歴の抽出の実施が効果的だと考えているかについて、「はい」と回答した職員は、1,701人中1,504人・88.4%と半数を超えている。一方、「どちらとも言えない」と回答した職員が123人・7.2%であり、「いいえ」と回答した職員は、32人・1.9%となっている。

Q38 Q37 で「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した場合、なぜそう思いましたか。また、改善方法があればご記入ください。

【主な意見】

- ・全員を調べているわけではないので、不正に見ていても抜き打ちにあたらなければ見過ごされる。
- ・結果的にどう反映されているか不明である。
- ・抽出して不正の閲覧している人がいた時の対処が不明である。

Q39 個人情報の取扱いの改善策として、懲戒処分基準の見直しを進めていますが、効果があると思いますか。



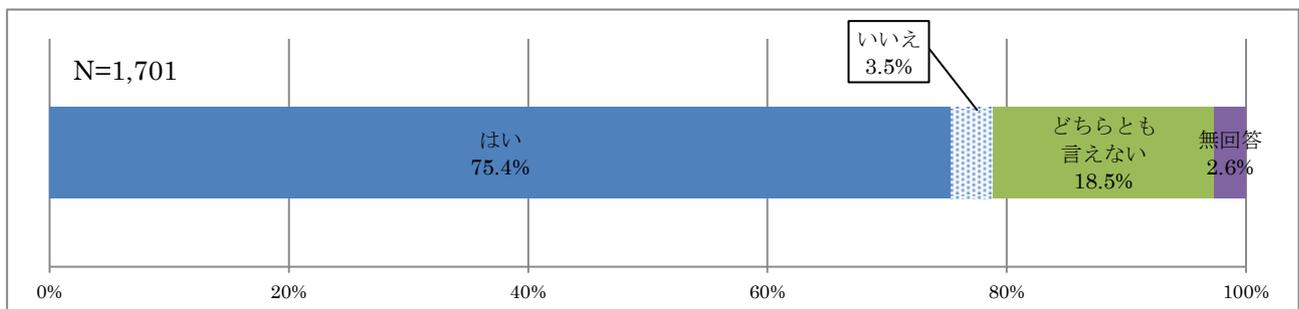
懲戒処分基準の見直しを進めているが、効果的だと考えているかについて、「はい」と回答した職員は、1,701人中1,508人・88.7%と半数を超えている。一方、「どちらとも言えない」と回答した職員が122人・7.2%であり、「いいえ」と回答した職員は、31人・1.8%となっている。

Q40 Q39で「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した場合、なぜそう思いましたか。また、改善方法があればご記入ください。

#### 【主な意見】

- ・ 処分が厳しい事と意識の向上は別だと思う。
- ・ 懲戒処分基準の見直しはより慎重に行わなければならない。
- ・ 改正された際にしっかりと周知することで効果が出ると思われる。

Q41 個人情報の取扱いの改善策として、能力開発を主眼とした人事評価制度の導入を進めていますが、効果があると思いますか。



能力開発を主眼とした人事評価制度の導入を進めているが、効果的だと考えているかについて、「はい」と回答した職員は、1,701人中1,282人・75.4%と半数を超えている。一方、「どちらとも言えない」と回答した職員が315人・18.5%であり、「いいえ」と回答した職員は、59人・3.5%となっている。

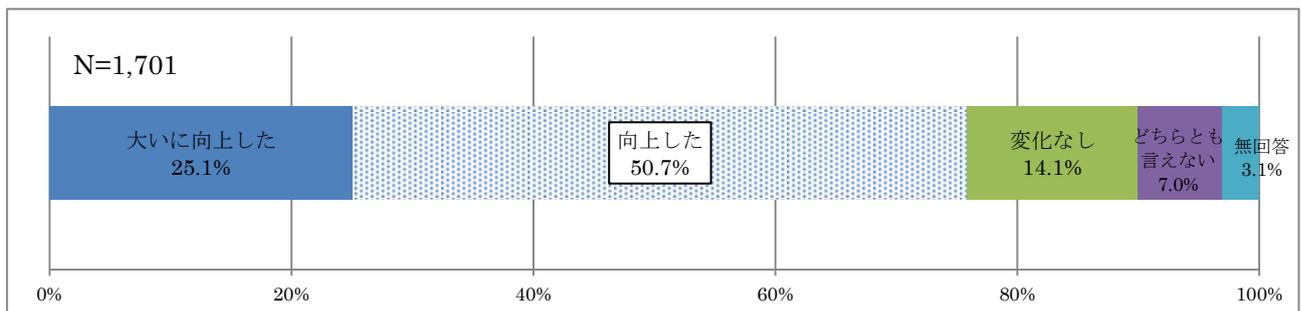
Q42 Q41 で「いいえ」「どちらとも言えない」と回答した場合、なぜそう思いましたか。また、改善方法があればご記入ください。

【主な意見】

- ・個人情報の取扱いと能力開発の関連性が分からない。
- ・制度導入が効果に直結するとは考えにくい。
- ・能力開発と個人情報の改善策どういう繋がりがあるのか不明である。また、それが評価に繋がるというのがよくわからない。

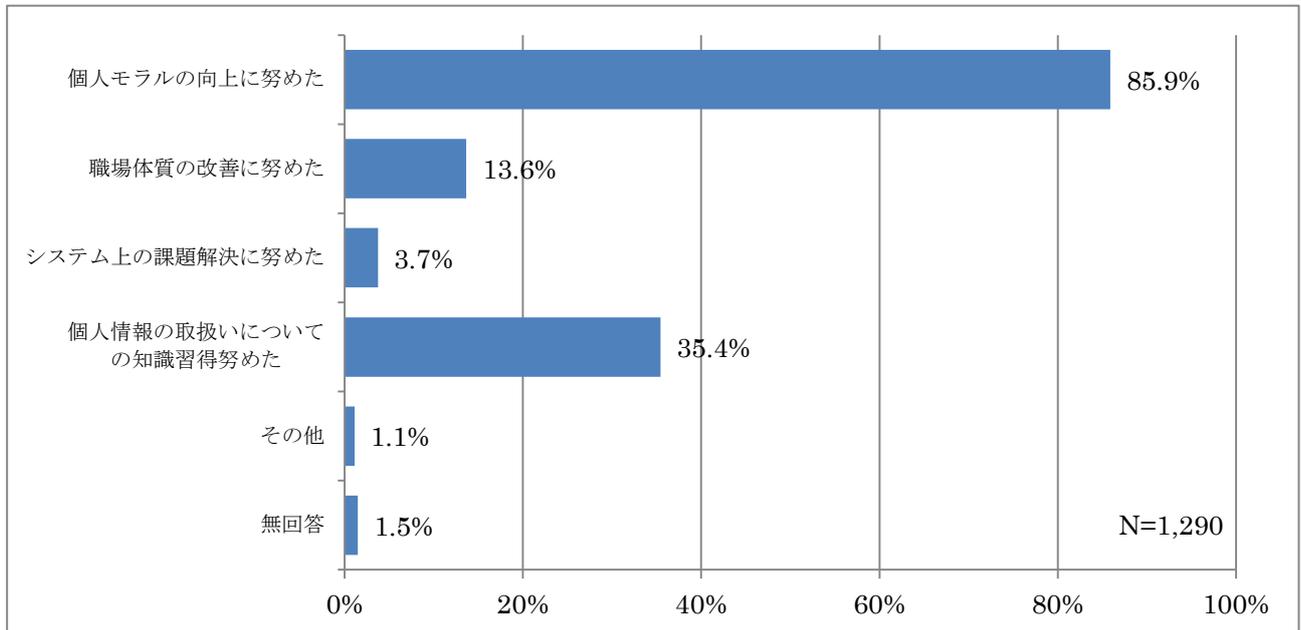
(4) 個人情報の取扱いにおける意識の変化について

Q43 個人情報の取扱いについて、昨年度の不正閲覧問題から比較して、あなた自身の意識が向上したと思いますか。



個人情報の取扱いについて、昨年度の不正閲覧問題から比較して、あなた自身の意識が向上したかについて、「大いに向上した」と回答した職員は、1,701人中427人・25.1%と「向上した」と回答した職員は863人・50.7%と併せて半数を超えている。一方、「変化なし」と回答した職員が240人・14.1%であり、「どちらとも言えない」と回答した職員は、119人・7.0%となっている。

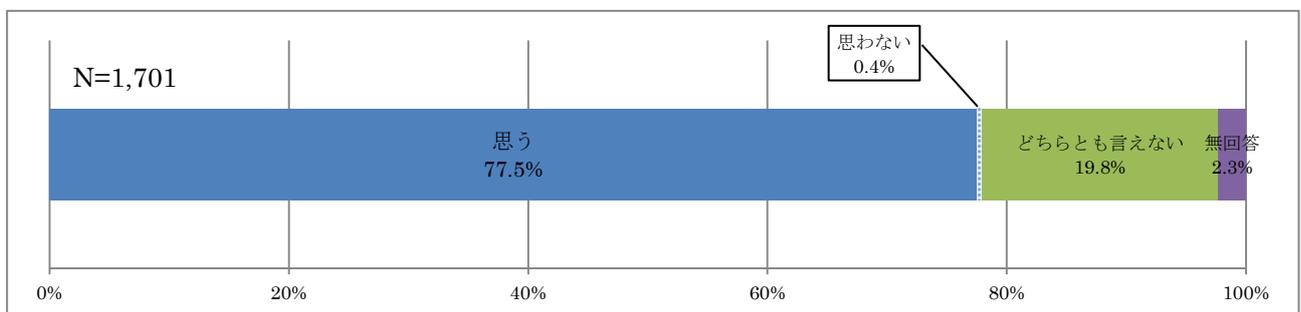
Q44 Q43 で「大いに向上した」「向上した」と回答した場合、意識の変化によりどのような行動をとりましたか。【複数回答可】



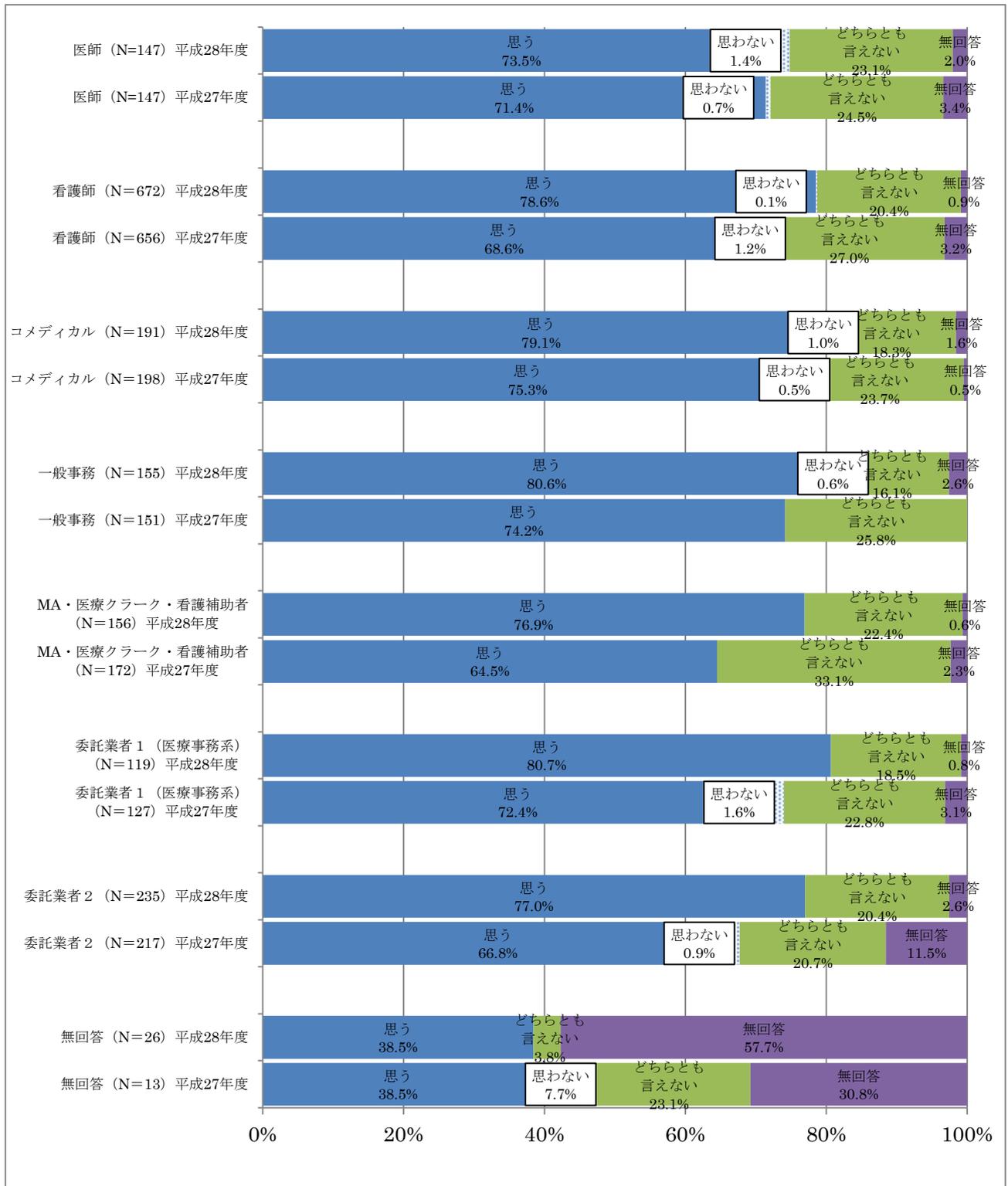
「大いに向上した」「向上した」と回答した職員の意識変化の割合では、「個人モラルの向上に努めた」が 1,290 人中 1,108 人・85.9%と最も多く、次いで「個人情報の取扱いについての知識習得に努めた」が 457 人・35.4%、「職場体質の改善に努めた」が 176 人・13.6%の順となっている。

#### (5) 大崎市病院事業職員としての自覚について

Q45 最後にお聞きします。あなたは、県北の基幹病院を有する大崎市病院事業に勤務する職員として、それにふさわしい行動をとっていると思いますか。



県北の基幹病院を有する大崎市病院事業に勤務する職員として、それにふさわしい行動をとっていると思うかについて、「思う」と回答した職員は、1,701 人中 1,319 人・77.5%と半数を超えている。一方、「思わない」と回答した職員が 6 人・0.4%であり、「どちらとも言えない」と回答した職員は、337 人・19.8%となっている。



「ある」と回答した職員の職種別に占める割合では、「委託業者1 (医療事務系)」が最も多く、119人中96人・80.7%となっており、次いで「一般事務」が155人中125人・80.6%、「コメディカル」が191人中151人・79.1%の順となっている。

### Ⅲ 課題

調査の結果、改善策が功を奏し職員一人ひとりの意識の変化が伺えるものの、「適切な取扱いの意識」、「再発防止の行動」等、昨年度の調査結果と比較し比率が悪化したものや「個人情報の閲覧」、「情報の持ち出し」等、昨年度の結果と比較して改善が伺えるものの、未だに個人情報を適切に取扱わない職員が存在していることから、更なる対策が必要である。

また、改善策を評価していない意見があるのも事実であり、この調査により浮かび上がった課題を整理し、現在行っている対策をより効果的なものにしていく必要がある。

### Ⅳ 今後の対策

効果の検証により、7つの対策の見直しを図りながら継続して実施する。

#### 1 参加型研修の開催

##### (1) 参加型研修の開催

職員の78.1%から効果的との評価を得たが、「職員の意識」や「職場の状況」の調査結果から判断しても効果が乏しいことが伺えることから、一人ひとりの意識改革に繋がるよう内容を見直しながら継続して実施する。

#### 2 職場風土の改善と公益通報者保護制度の周知徹底

##### (1) 管理監督者研修会の開催

職員の77.0%から効果的との評価を得た。管理職のマネジメント能力を向上させるためにより実践的な研修となるよう見直しながら、継続して実施する。

##### (2) 公益通報者保護制度の積極的活用に向けた周知の徹底

職員の79.2%から効果的との評価を得たが、「制度の周知不足」と取れる意見が多くあることから、窓口設置や制度について、定期的に職員へ周知し、認知度を高めていく。

#### 3 システム機能の見直しとシステム操作研修の実施

##### (1) 電子カルテの閲覧制限機能の充実強化

職員の86.7%から効果的との評価を得たが、「実施内容が不明」との意見があることから、実施内容の周知を図りながら継続して実施する。

##### (2) 電子カルテの閲覧履歴の参照機能の充実強化

職員の88.5%から効果的との評価を得た。さらに職員への周知を図りながら継続して実施する。

##### (3) 職種及び経験年数に応じたシステム操作研修の実施

職員の80.7%から効果的との評価を得た。さらに職員への周知を図りながら継続して実施する。

## 4 不要権限の見直し

### (1) 職種に応じた不要権限の見直し

職員の 87.6%から効果的との評価を得たが、「何が必要で何が不要権限か不明確」との意見があることから、権限を見直すメリット・デメリットを職員に周知し理解を得ながら継続して実施する。

## 5 定期的なアクセス履歴の抽出や抜き打ち調査の実施

### (1) 定期的及び抜き打ちによるアクセス履歴の抽出の実施

職員の 88.4%から効果的との評価を得た。職員一人ひとりが「不正閲覧は悪いこと」という認識を持ち続けられるよう、啓発対策の一つとして継続して実施する。

## 6 処分基準の見直し

### (1) 懲戒処分基準の見直し

職員の 88.7%から効果的との評価を得た。一方で「処分が厳しいことと意識の向上は別もの」や「見直しは慎重に」との意見があることから、職員労働組合との協議を踏まえ、職員からの理解が得られる基準の見直しを行い、見直し後は職員に対し内容を周知する。

## 7 病院事業職員としての自覚の醸成

### (1) 能力開発を主眼とした人事評価制度の導入

職員の 75.4%から効果的との評価を得たが、能力開発の関連性を疑問視する意見が多くある。人事評価制度がスタートしたものの、制度が未成熟であることから、今後、研修の充実を図りつつ、熟度を上げながら情報管理と関連する人事評価の制度を構築していく。

## V 新たな制度への対応

### 1 マイナンバー制度への対応

マイナンバーを取扱う専用領域（個室）の確保や取扱う職員の制限、情報を保管するサーバーの独立化といった組織的安全管理措置、人的安全管理措置、技術的安全管理措置を考慮し対策を講じている。

### 2 要配慮個人情報への対応

平成 27 年 9 月 9 日に公布された改正個人情報保護法においては、特に慎重な取り扱いが求められる個人情報（病歴等）を要配慮個人情報として定義された。

本改正を受け、患者本人の同意なく第三者へ情報提供しないなどの適正な運用を職員へ周知するとともに、申請書の様式変更など必要な対策を講じていく。